

令和5年度
東広島市地域の子育て支援に関する
団体等調査結果報告書

令和6年3月

東広島市

《目次》

回収率	1
種別分布(SA)	1
【自治協のみの設問】問2 子どもを対象とした取組の有無(SA)	1
【支援団体のみの設問】問3 機関・団体の主な活動(MA)	2
【支援団体のみの設問】問4 活動の上で連携している機関、団体先(MA)	3
【支援団体のみの設問】問5 1回(1日)あたりの平均的利用者数(SA)	6
問6 これまでに特に力を入れてきた取組(事業)、重視している点(自由記入)	6
【自治協のみの設問】問6-1① 取組(事業)への1回あたりの参加人数(子ども)(自由記入)	15
【自治協のみの設問】問6-1② 取組(事業)への1回あたりの参加人数(大人)(自由記入)	15
問7 取組(事業)を進める上での課題(MA)	16
【自治協のみの設問】問7-1 取組(事業)を利用しやすくするための予定(自由回答)	18
問8 東広島市を子育てしやすいまちとするために必要なこと(MA)	21
問8-1 問8の理由(自由記入)	22
問9(1) 取組(事業)を通じて感じられる子どもが抱える課題(自由記入)	33
問9(2) 取組(事業)を通じて感じられる保護者が抱える課題(自由記入)	38
問9(3) 取組(事業)を通じて感じられる家庭を取り巻く課題(自由記入)	42
問10 「家庭が抱える課題」を解決するために取り組みたいこと(自由記入)	47
問11 市と協働で取り組みたい子育て支援(自由記入)	52

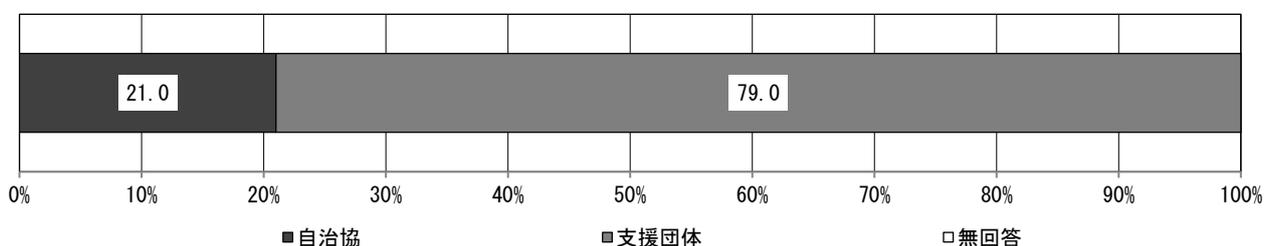
回収率

「自治協」が 30 件、「支援団体」が 113 件の回収で、自治協の回収率が 62.5%と比較的高くなっています。

種別	配布数	回収数	回収率
自治協	48 件	30 件	62.5%
支援団体	213 件	113 件	53.1%
合計	261 件	143 件	54.8%

種別分布 (SA)

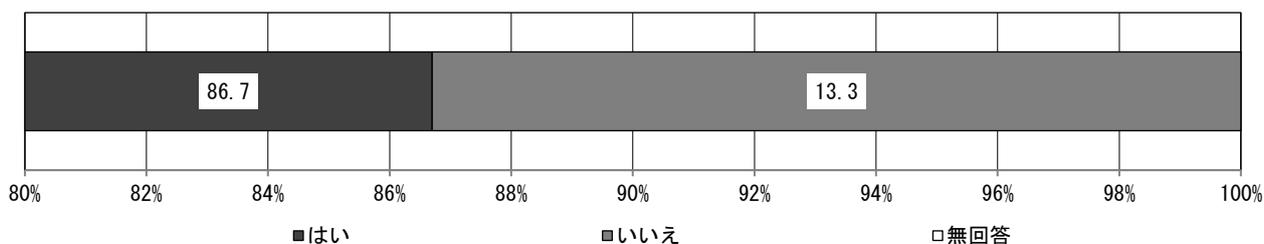
(SA) n=143



【自治協のみの設問】問2 子どもを対象とした取組の有無 (SA)

「はい」が 86.7%を占めています。

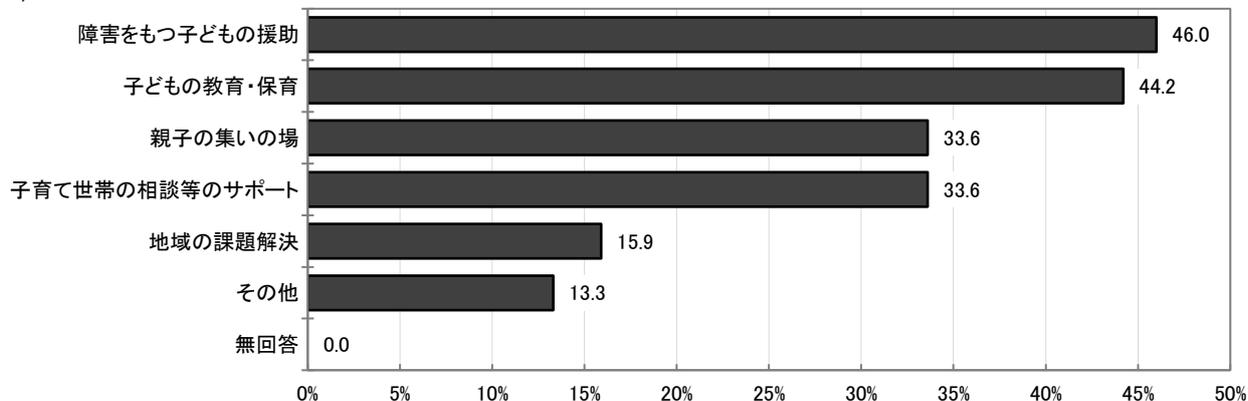
(SA) n=30



【支援団体のみの設問】 問3 機関・団体の主な活動(MA)

「障害をもつ子どもの援助」が46.0%で最も高くなっています。次いで「子どもの教育・保育」が44.2%、「親子の集いの場」、「子育て世帯の相談等のサポート」が33.6%が続いています。

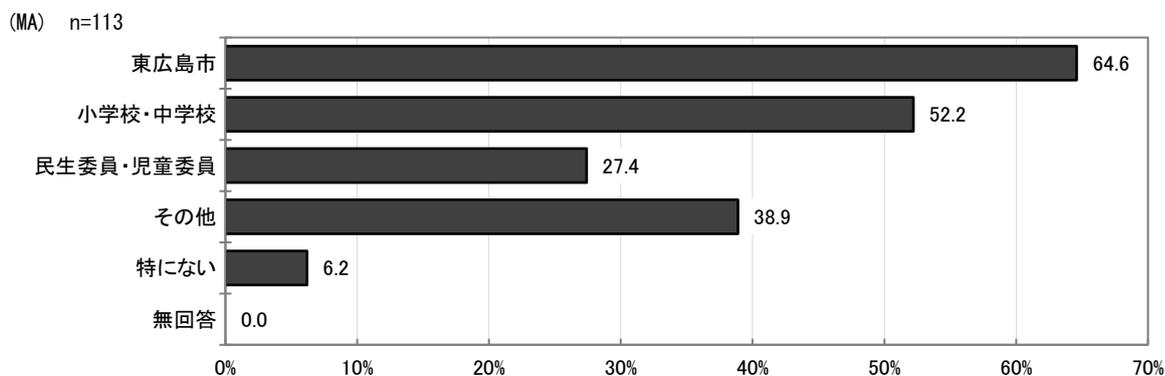
(MA) n=113



その他回答
運動療育
外国籍の子育て支援や交流支援、妊婦への支援、父親の子育て支援など利用者支援事業
講座、講演会など参加者の子どもの託児
子育てサークル
子育て支援センターなどでコンサート(イベント)
子育て支援に係る活動に場の提供を行っている
子育て中のお母さんが一息つける場所
子どもが一緒でも吹奏楽を楽しめるサークル。保育園、幼稚園などから依頼を受け出張演奏を行う
子ども食堂として会食
里親の啓発活動、ピアサポート
相談支援事業所、障害児、者
多世代交流
地域のつどいの場
ファミリーサポートセンター
保護者との関わり

【支援団体のみの設問】 問4 活動の上で連携している機関、団体先 (MA)

「東広島市」が64.6%で最も高くなっています。次いで「小学校・中学校」が52.2%、「その他」が38.9%が続いています。



東広島市関係課	類似回答数
こども家庭課	52
保育課	19
障害福祉課	18
青少年育成課	8
社会福祉協議会	3
生涯学習課	3
はあとふる	2
教育委員会	2
指導課	2
地域共生推進課	2
DX 課	
教育委員会	
黒瀬保険福祉センター	
障害課	
障害支援課	
地域共生課	
保健師	
健康福祉部	
産業振興課	
人権	
文化課	

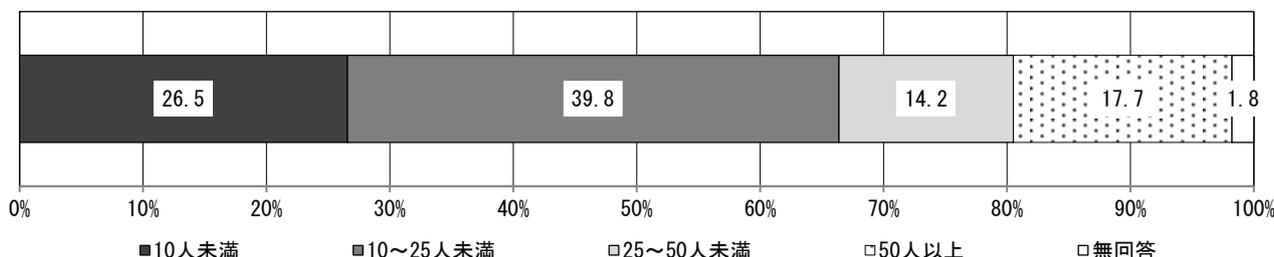
その他回答	類似回答数
相談支援事業所	8
はあとふる	6
社会福祉協議会	4
東広島市社会福祉協議会	4
医療機関	3
幼稚園	3
広島国際大学	2
子育て支援センター	2
児童発達支援事業所	2
保育園	2
(公財) ひろしま国際センター	
(公財) 東広島教育文化振興事業団	
「さとの会」のメンバーとして例会に参加	
あおぞらひろば	
オアシス	
かぼの	
こども食堂	
サークル	
すくすくサポーター	
にこにこベビーサークル	
ファミリーサポートセンター	
フレンドスペース	
ゆなの風訪問看護ステーション	
わかば療育園	
医療関係他	
演奏会を受けている保育園	
何かあればこども家庭課とも	
各支援センター	
学童	
教育振興事業団	
広島県教育委員会	
広島大学	
広島大学 EVRI	
広島大学博物館	
合同会社ひとむすび	
黒瀬児童館	

その他回答	類似回答数
子ども家庭センター	
子ども食堂	
子育てサポーター	
子育てボランティア	
市内福祉事務所（放課後デイ）	
児童クラブ	
児童館	
自治協	
社会福祉法人太陽の町	
西部子ども家庭センターなど	
川上地域センター	
相談支援など)	
他の子育て支援センター	
他園所	
他地域及び同じ地域の子育て支援センター	
地域センター（川上）	
地域の子ども食堂	
中学校	
東広島市内	
東広島消防署	
特別支援学校	
乳幼児教育支援センター	
福祉事業所	
福富支援センター	
保育所	
保育連盟	
放課後デイ連絡会	
放課後等デイサービス	
本社	
民間支援施設	
利用者が通っている支援学校	
利用者の通園している幼稚園	
療育機関	
療育施設	

【支援団体のみの設問】 問5 1回（1日）あたりの平均的利用者数 (SA)

「10人～25人未満」が39.8%で最も高く、次いで「10人未満」が26.5%、「50人以上」が17.7%が続いています。

(SA) n=113



問6 これまでに特に力を入れてきた取組（事業）、重視している点（自由記入）

【主な意見の抜粋】

- 子どもの居場所や学校外での活動など、多様な活動が挙げられている。
- 学校外での子ども自身の成長につながる教育や体験を提供している団体がみられる。
- 親子で過ごせる環境の提供や異年齢、子育て世代同士、地域の人同士の交流を目的とした活動がみられる。
- 発達に課題がある子どもや障害をもった子ども、親への支援、相談支援などの活動がみられる。

【参考】 AI を活用したとりまとめ

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • 安全な場所提供に向けた取り組み • 感受性や思いやりの心を育てる活動 • 季節ごとのイベントや行事の開催 • 教育・学習活動の推進 • 高齢者や異年齢の子どもの支援 • 子どもたちがリラックスして過ごせる場所の提供 • 子どもたちの社会教育の場面提供 • 子どもの健康と安全を重視した活動 • 子どもの自主性を重視した活動 • 子どもの社会性を育てる活動の実施 • 子どもの主体性を尊重する環境作り • 子どもの主体的な活動の支援 • 子どもの成長と発達を促進する活動 • 子育て世帯のサポート活動 • 自然とのふれあいを通じた教育 | <ul style="list-style-type: none"> • 障害を持つ子どもへの支援 • 親子で参加できる講座の開催 • 親子の交流を促進する活動 • 親子の支援と相談受付 • 親子や地域との交流活動 • 体験学習や実践的な学習の提供 • 地域イベントの開催と参加 • 地域の子育て拠点としての活動 • 地域の歴史や文化の伝承活動 • 地域交流を通じた子どもの成長支援 • 発達障害のある子どもへの専門的な療育 • 保育・教育環境の改善と安定 • 保護者の困りごと解消と支援 • 保護者の就労支援 • 放課後の子ども向けサービス |
|--|--|

その他回答

住民自治協議会の意見

「郷田っ子を育てる会」で行っている事業が子どもと直結している

- ・交通安全教室
- ・郷 GO サタデー小田山登山
- ・ゆーすふるサンデー
- ・小学校児童の登下校見守り

今年度は特に・郷田の恵み食べん祭の完全復活ができた

関係する各団体との綿密な打ち合わせなどを行い、次世代を担う子どもたちの、心身ともに健やかな成長を願っている

1. 「放課後子ども教室」で英語指導(3グループに分けてそれぞれ月1回)

英語に興味を持ってもらうことを第一に、道案内や簡単な日常会話の習得を目標にしている

2. 「水辺教室」を環境保全部を中心に実施(年1回)

水質検査を兼ね川で生息している生物を調査することで、川の大切さ、自然を大切にしようという心を育てる

3. 文化部主催の「文化展」に町内の小中の児童生徒の作品も展示している

1. 親子であそぼう in りゅうおう(未就学児対象)。申し込みは周辺地域含めて親子で 200 人以上

2. 龍王塾(小学生対象)キーワードや親子

1. 観望会(星を見る会)

子どもたちにいろいろなことに興味を持ってもらうことの一つとして継続的に実施している

2. ウォーキング大会

(これは子どもだけではなく大人も含めての事業)

健康と地域の意外に良いところがあることを知ってもらいたい

1. スポーツフェスティバル in 中黒瀬(トップアスリートに学ぼう)・中小児童全員休日授業午前中

2. 防災学習・中小3年生～5年生(授業の一環、5、6時限)

3. 農業(水稻)体験。田植え～刈り取り・中小5年生(授業の一環、5、6時限)

4. 中黒瀬ふれあい農業祭り出店・中小5年生(任意参加)

1. 地区社協が行っている赤ちゃんサロンへの助成(2ヶ所)

2. 一人暮らし高齢者宅を小学生2人が訪問する子ども民生委員体験活動(年2回)

3. 東西条小学校 PTA が主催する「星空まつり」への協賛と当日の協力(7月)

4. 東西条小学校 PTA と住民自治協議会が主催の「地域で子育て講演会」の開催(本年度はファミリーコンサートとして5月 28 日に開催)

5. 東西条小学校 PTA 開催、自治協協賛の「とんどまつり」(1月)

1. 放課後子ども教室(毎週木曜日 15 時～17 時)

2. シロウオと遊ぼう(体験学習)

3. カニカニ大捜査(体験学習)

4. ホタル観察会(体験学習)

5. 教育講演会「ようこそ先輩」

6. 学校教育支援活動(ホボロ島観察、郷土史学習、読み聞かせ他)

学習活動、地域との交流活動を推進すると共に安全な居場所作り。木谷地域の魅力(歴史、自然など)を体験を通して学習し、地域が好きな地域を誇りに思えるような子どもの育成を目指す。そして地域が好きで誇りに思えるおとなとなり、いずれかふるさとに帰って来ようかと考える気持ちを持つようになってほしい

①生城山登山道の整備(志和小4年生遠足)

②ペタンクの子ども及び親子大会の開催

③区民祭り(11 月)において子ども参加の内容を開催

④幼小児保護者に対する子育てママの会の後援

⑤もちつき大会の後援

①昔の遊び体験、昔の生活体験学習

②木芯コマの配布

③平岩小学校とのつながりを重視している

その他回答	
板城小学校とは年間行事として昔遊び、米作り関係、卒業記念ハイキングなどの事業を行っており、子どもたちの社会教育の場面とは思うが、授業環境を離れての息抜き、気分転換の場の提供を目指している	
歓送迎会(3月) 内容はピザパーティー、ボーリング大会、食事会など 年2会地域の花植えや秋祭りのお手伝いなど地域の方々と交流を深めること	
元旦ロードレース、クリスマス会、送別会。子どもたち皆が楽しく参加すること	
区民祭り、区民スポーツ、多世代交流、学校行事との連携 子どもフリーマーケット 子どもの発案による「カレーでも作って食べよう会」 おとなは場の設定をするが、計画や実施は子どもが主体となって行うことにより地域への愛着と所属感を高め、子どもの活動を通しておとなも地域の輪を広げる	
子どもが少ないので他自治協と合同で開催している	
子どものみの事業ではないが、ボーリング大会、防災訓練を実施(全世代対象)	
コロナ以前は夏休み中の勉強会、卒業前のお別れ会などを実施 保育所児童～中学生の年齢を越えた仲間づくり、親、保護者も含めて 最近は子どもが少なくなり、行事も極少数での遊びで精一杯である	
主催講座 親子で参加できる講座 地元の価値ある自然や施設を知ってもらえるような講座	
地域の良さ、歴史、文化の伝承を重点に次のように取り組む 学校との交流の場で地域の昔話や古墳の紹介 また昔遊びの遊び道具を一緒に作り、一緒に遊ぶ野菜や花育てなど 重視することは接触すること	
当地域は小学生1年生1人、3年生1人、5年生2人、中学生0人、高校生おそらく0人。全員スクールバス通学	
年1回の漢字検定 夏祭り、秋祭りへの参加(子どもショー、和太鼓) お楽しみ会 どの年齢でも参加ができてなお保護者の負担にならないように考えている	
八本松元川上西部保育所、八本松中央幼稚園、現八本松太陽こども園に関わってきた。また現太陽こども園にもあらゆる面で支援している ①今までにやってきたこと イ)四季折々の花や木々の提供(さくら、苺、桃の木)、七夕用の竹(7～10本) ロ)年中行事、運動会にグラウンドの土ほこり防止の「にがり」の配布 ハ)年末のクリスマス会にサンタで登場しプレゼントする ニ)日ごとの文具用品の提供(市内の看板屋さんに頼んでカラーシートの切れ端を保存していただき、もらいに行き園に提供。専用シートなのでカラフルである) ホ)先生方にも日頃の苦勞を励まし私の書で激励文を書いて提供 その他臨時用駐車場の確保など 毎月1回は延長との懇談を実施してきた。今も継続 重視する点は地域の支援がどれだけ保護者に情報伝達できているかにあり、自治協ニュース(月1回発行)を回覧している	
原自治協議会の「子どもを育む環境部会」とCS(コミュニティー・スクール)の連携により①小学校1年生を対象とした「昔あそび交流会」を地域の人たちが児童に教える交流会を実施(3年前から継続)、②学校の総合学習において地域の専門家による講義をおこなっている(虫博士、野菜、飯金、篠笛)③タウン&ガウンによる「地域の元気応援プロジェクト」を広島大学と連携して毎週木曜日の午後に「プログラミング教室」を開催している	
放課後子ども会(毎週木曜日 15時～17時)約25名 わずか2時間だが、楽しく過ごすように努めている	

その他回答	
盆踊り大会(花火)において紙飛行機距離大会 小学校で講師を招いて陶芸教室	
毎月第4日曜日に寺院を借り多世代が交流できるような取り組みを実施している	
もみじウォーク 重点。誰もが簡単に参加できる。完歩後の達成感	
私立保育所・認定こども園の意見	
4月に開園した園である。まず子どもたちが笑顔で当園する園を目指している。教育、保育が安定して行えるよう目標を同じとできるよう保育士、保育教諭で研修を重ねている	
遊びを中心に自然事象や物ごととの出会い、観察する、試す、繰り返すことにより探求心を養い、考えることを大切にすること。運動、造形、音楽活動を通して感受性を高め、思いやりのある心を養ってきたこと 子どもと保護者の気持ちに寄り添いながらワクワクした毎日を過ごすこと	
一時保育。保護者支援も重視している	
園児、保護者、地域の方などの相談支援に保育士、看護師、栄養士の専門性を最大限に活かした取り組みを心掛けている。しかしながら子育て支援センターを通しての地域支援に限られる傾向がある	
園庭開放	
子どもたち、保護者が安心、安全に楽しく過ごせ津ことを大切に日々業務に努めている。子どもたちの主体性を重んじながらの安全管理、人的、物的環境を整えていくことへも気持ちを引き締め丁寧にに対応していくことを心掛けている	
子どもの教育、保育。子ども一人ひとりの育ち、子どもの意思を尊重しながら丁寧に関わる	
子どもの主体性を育てること 子ども一人ひとりを大切に、保育者自身が子どもの気持ちを汲んで思いやりある態度で接し、子どもの自己表現を引き出せるようにする	
多世代交流 御園宇自治協議会と連携を取っている	
仏教園でもののいのちを大切にし、感謝する心、素直なやさしい心を持った子どもを育てる	
保育、介護、福祉事業	
保育の充実、質の向上 職員の働きやすさ	
本園は自分たちで野菜や花を育て、生育の過程を知り、食材として料理し食べるということを経験することで、命の大切さを子どもたちに伝えていきたいと考えている(大豆から育てたたくさんの大豆で豆腐作り、夏野菜ピザクッキングなど) またそのようなさまざまな園の取り組みを園内外の方にインスタなどで発信している。園内の保護者はもちろん、園外の方、地域の方にも保育園の取り組みを知ってもらい、気軽に立ち寄ってもらえるような保育園にしていきたい	
学ぶことを楽しいと思ってもらう。ケガをさせない	
モンテッソーリ教育、縦割りのクラス編成、見て学ぶ 子ども一人ひとりの育ちを見守り、自主的(主体的)に取り組む活動ができるようにしている	
障害児保育 障害児保育についての学びの場に参加している	
認可外保育施設の意見	
みつかる、つながる、よくなっていくをスローガンに一人ひとりを大切にしたいプログラムを展開している。伴走サポートに力を入れ、日々のようすでの出来事やエピソードを記録する独自のオリジナルサポートプログラムを行っている	
アフターコロナにおける介護と接遇の見直し 職員間の連携を密に取り、より楽しく充実した一日を過ごしてもらえるように努める 高齢者や異年齢の子どもなどを含む人材や地域の資源を積極的に活用し、豊かな生活体験をはじめ保育内容の充実を図る	

その他回答	
異年齢保育での活動 個々の発達に合わせた対応	
英語教育	
園の行事として「運動会」「発表会」「参観日」など 地域発信の取り組みとして「園庭開放」 企業主導型の施設は本来、国の施策としての立ち位置ではあるが、いろいろな取り組みを通して当園への入園を希望する保護者が増えている	
子どもの主体性を尊重する関わりの中で、ここにいていいんだと思える環境(物的、人的)作り 自然の中から本物を通して感じる力を磨く保育、教育の探求	
就労時間が短かったり、日数が少ない人、または育児休業中で保育を必要とする人へのサポート。病児・病後児の保育 地域の子育て支援活動をしている人へ無償で場を提供することにより子育て支援の場を作る	
待機児童の受け入れ	
定員に限られる中で、保育を希望される保護者の就労を支援できるよう受け入れを行ってきた	
東広島の自然豊かな環境を活かした体験活動 稲作文化の体験や継承	
幼稚園の意見	
子どもの姿から遊びをつないでいくこと。またそのことを研究として研究会を公開している 重視している点は附属としての使命である地域貢献ということで、市内、市外、県外の先生方と学び合える場になるよう努めている	
当園は幼稚園である。教育基本法及び学校教育法その他の法令並びに幼稚園教育要領の示しに従い、「生きる力を育む」ための資質や能力を育む幼児教育を行っている	
道徳の基本としてのキリスト教育と団体生活を通して心身の成長発達を促すことを重点に活動している	
子育て支援センターの意見	
2歳の日(1歳半検診後のフォロー教室) 重視していること・親子の支援、こども家庭課との連携	
親子で気軽に来ただけの環境作り。母同士をつなげる(子育てに孤立しないように)。来所者が必要としている社会資源につなぐ	
親子のふれあいの場所作り	
来てもらえる保護者の意見を聞きながらその時のニーズに合わせたイベント、講座の実施を行っている	
子育ての孤立化を防ぐ為の子育て相談や利用者同士の仲間づくり。また虐待防止や楽しい子育てとなるような親子の関係づくりとアウトリーチ。その為に必要な初回利用時の登録説明と聞き取り。またそれをする為にスタッフの質の向上の為随時研修を受けたり行ったりしている	
子どもの成長を促進する為の健全な環境整備	
自園の栄養士、看護師、また外部の講師(助産師など)に講座依頼をし、子育て講座を実施。講座を受けることにより親の子育ての悩みや相談、子育てのノウハウなどに対応して子育てが楽しめるように実施している	
地域センターとして育児の困りごと、親同士の交流、発達の凸凹などについて安心して話すことができ、育児に前向きになるように、また来ようと思ってもらえるよう努力している	
育児支援することができるように講座を開催している	
地域の子育て拠点として地域の親子が利用しやすい活動、行事の開催に力を入れている	
地域の親子が集まりやすい環境と行事の計画を心がけている	
転入転出が多い地域なので、子育て世代の居場所作りとなるよう心掛けている。スタッフは指導者ではなく伴走者として関わるよう気をつけている	
利用者がしたいことを聞いてできる範囲でしている。母親同士がコミュニケーションを取りやすいように同じタイミングで製作などをできるようにした	
子育てサークル・サロンの意見	
親がゆっくりくつろげる場の提供。予約なしで参加できること。また費用がかからないこと	

その他回答	
親子の愛着が醸成されるような活動(ミュージックケア、わらべうた、絵本読み語り) 安心安全な食事の提供。調味料などの紹介 健康自立のサポート(食事習慣、健康体操、オーガニック食材の学習会、お産婆さんの話)	
季節ごとの製作やイベントに取り組んでいる。子どもはもちろん、親も楽しく取り組めるようにというのを重視している	
心の豊かさ	
子育て支援センターでミニコンサートを開いたり、それに向けての練習。また一緒に活動するメンバー(子連れ)との交流	
子育て世帯同士の仲間づくり。地域での子育て世帯のサポート	
子育て中のお母さんがほっと一息つけるよう、子どもにとっても楽しく安心して過ごせる場所を目指し、活動している	
里親制度の啓発活動、里親ピアサポートの為にサロンの実施、里親ショートステイの推進	
参加している親子同市でふれあい遊びや絵本、工作など楽しむ時間を設ける。育児への名や m に、転居して来た人の不安など、相談し合える仲間ができる喜び、安心感。また訪問演奏先で子どもたち、支援センターの先生、支援センターの利用者親子に楽器や音楽に親しんでもらう	
自然体験(稲作など)、異年齢交流 子どももおとなも集える場。家族参加も大切にしている。それぞれのペースでの参加を大切にしている。プログラムをあまり設定せずに主体的に活動してもらいたいと考えている	
住んでいる地域の中で外遊びの機会を定期的に作ること 親同士の近所のコミュニティを作ること	
日本人親子と外国人親子と一緒に子育てを楽しめる場所づくり	
ひとり親家庭及び予備軍のお母さんやひとり親で育ててきた子(成人)などの相談を受けること。シングル経験を通して現在しんどい思いをしている方のメンタル面でのサポートやアドバイス、共感をすること	
理解ある環境の中で楽しかったと思える活動を行い、さまざまな経験を通して一人ひとりの個性を認め合える場所づくり 親、保護者の悩みを一緒に考えていけるよう、何でも話せる雰囲気づくり	
放課後児童健全育成事業(民間)の意見	
アイキッズでの約束を守る。施設が商業施設の上の駐車場の中にあるので、外では遊べない。その為館内で児童にいかにお楽しみしてもらえるかということを重視している。生涯学習課の出前講座、近畿大学のマイコン部やテーブルゲーム部、腹話術、花王や JA、グリコ、中国電力などの企業のイベント、アイシングクッキー、陶芸などを開催している。早い下校時にはたくさんのお仕事をしている。学生のバイトが宿題をよくみてくれている	
子どもにとって放課後児童クラブが安心して過ごせる生活の場になること。適切な遊びを与えて健全な育成を図ること	
主体性や社会性を高め、人間関係を深める自主的な遊びの推進→3つの「間」(一緒に遊ぶ仲間、遊べる空間(場所)、遊べる時間)を十分に保障し、安心感を醸成させるようなきめ細かい見守りを行う 学力、学習習慣定着の為、日々の宿題や学習プリントの完全実施→全員で落ち着いて学習できる雰囲気づくりをし、やり切らせる。意味理解を促す丁寧な支援を行う	
全学年対応(小学校) 放課後など、留守家庭の児童の健全育成 教育相談	
聴覚障害を持つ家庭にとって住み良い地域づくり。まずは施設の職員が聴覚障害についての理解を深める	
放課後こどもくらぶ(学童保育) 働く保護者の伴走者となり、子どもたちが「行きたい」と思える場所を提供することで、安心して子どもを預け、仕事をすることができる。子どもたちがリラックスして過ごせる場所であること	
放課後児童クラブ 本当に必要な人が利用できるように優先順位を設定している	
放課後児童クラブ、子ども食堂 子どもの主体的な活動支援が実態として行えているかどうか	

その他回答	
放課後児童健全育成事業	子ども自ら「行きたい」と思える施設。保護者が安心して働き子どもを預けられる施設
リトミックなど親と子がふれあうイベントの開催。救命講習、防災の知識。赤ちゃんの為の防災教室をして子育て中の親が何か起こった時に慌てないよう定期的に開催している。現在は月に累計 500 人くらいの親子の利用がある。気になる親子は市のすくすくサポート、産後ケア、ファミサポの利用を促している	
地域サロンの意見	
親も子どもも楽しめる空間作り。親同士のつながりを作り、子育てする上での相談などをできる関係作り	
クリスマス会、年度最後の3月に成長を祝うイベント(4月から保育園や幼稚園へ入所する子どもも多いので思い出になるようなイベントを開催している)	
乳児～幼児の親子が参加しているが、それぞれの親子が楽しめるような取り組みになるようにしている	
孤独を感じやすい0～3歳までの子を持つ親(主に母親)が友人や一人でゆつくりできる環境を提供すること	
小学校の行事で平日が振替休日になる日に地域センターで1日(8時～17時)子どもたちを見守っている(年に4回)。2008年度から初めて15年目になる。地域のボランティアの皆さんの見守りの元、さまざまな行事を計画し、子どもたちが豊かな体験ができるよう考えている。町内の自然や人々とふれあい、ふるさとへの豊かな思いを胸に心の根っこ作りをしてほしい	
地域で安心して過ごせる居場所を目指している。保護者の都合による預かり、放課後の学習の場、コミュニティ作り、月1～2回のイベントの計画、実行、地域の有志による食事提供などの取り組み	
福富周辺には親子で楽しめる場所がたくさんあるが、中でも旬な果物狩りを毎年計画して、自分で採って家族で食べる時間を大切にしている	
読み語り、英語で遊ぼう、昔ながらの体験(芋掘り、餅つきなど)。のびのび遊び、地域のボランティアとの交流	
子育てサロンに参加を促す(ポスター配布)	
サロンの内容の工夫	
サロンに参加している親子・民生の交流の場づくり(おやつタイム、自由遊びなど)	
新型コロナ関連で利用児者が少なく現在内容見直し中	
児童発達支援の意見	
個々に合わせた方法やペースで将来の自立的な生活や働く時に必要なスキル、マナーなどを学ぶ場の提供	障害特性に合わせた支援を重視している
子どもの療育、支援	子どもの特性を理解し、個々に合った支援を行うこと
サッカー療育、プログラミング、個別課題など	
自施設での療育の充実はもちろん、障害児及び配慮が必要な児童への関わり方を保護者と共有し家庭をサポートすること	
地域ニーズに応える為、去年より放課後等デイサービスに加え、児童発達支援を開始している。発達に遅れのある子どもに対して、社会性を身に付け将来自立して活動できることを目的に個々の特性や理解に合わせた支援(療育)を行っている	
当社は作業療法士が常駐していることで感覚統合療法を基盤にした遊びの提供をし、OT的視点での評価を行っている	
日常生活や集団行動など、利用している子どもの特性に応じてその能力を伸ばしていくこと	
発達障害がある子どもの療育	将来において必要と思われるスキルをその子の発達段階に応じて獲得すること
発達障害のある子どもへの障害特性を軸にした専門的な療育	
保護者への相談支援	
保護者の困りごとの解消。第三者目線での支援&提案	
本人支援(発達検査、構造化支援)	
家族支援(相談援助、困りごと、関わり方、就園、就学、医療機関との話し合い)	
地域支援(園、学級連携)	
障害児通所施設の意見	

その他回答	
行き場のない子どもたちの受け入れ(不登校)	重視していることは居場所作りから始め、自分の可能性に気付ける関わり
運動に基盤を置いた療育を通して、体の意識を高め、学校に必要な姿勢保持やバランス能力、注意力、集中力の向上を目指す	
運動や遊びを通して体を動かし、体力や体幹の向上につなげていくことを重視している	
学校へ行きにくい子、発達に課題のある子、通信制高校を卒業する子へのサポート。上記のような子どもたちが社会へ出て行くことを目指し、さまざまな力を身につけていく為のサポート	
子どもの社会性を育てることを重視し、人との関わり方やさまざまな体験ができる活動に力を入れている	
子ども一人ひとりが「楽しかった、また明日も来たい」と思える居場所づくり。一人ひとりの得意なこと、興味のあることを引き出し、楽しい雰囲気づくりをしていくこと	
保護者に対しては安心して預けられ、ゆっくりレスパイトケアできるようにしている。その為に保護者との信頼関係を築いていく	
視覚的支援	
視覚的支援	
集団活動(レクリエーション)	
小集団で活動ができるよう調節している(10人の利用者がある場合、5人、5人に分ける)	
集団療育、及びソーシャルスキルトレーニング	
障害を持つ子どもの療育(生活支援、コミュニケーションの取り方、集団、個別療育)	
保護者相談、療育相談、ソーシャルトレーニングなど	
スモールステップにて自分のできることを増やし、自己肯定感が上がる要支援を行う。また集団活動の苦手な子どもにも楽しく参加できるレクリエーションを通してルールやコミュニケーションスキルを学んでもらう。さまざまな技法を使用し、ソーシャルスキルトレーニングを行う	
生徒のやりたいことを形にする(おとなの都合のいい子にはしたくないので)	
自然な表情で過ごせるように心がけている(子どもなのに死んだような目にさせないように気をつけている)	
ソーシャルスキルトレーニングに力を入れ、人との関わりや基本的生活習慣の自立に向け日々支援(療育)を行っている	
日常生活や将来の生活につながるよう、自分の役割を意識して達成感を味わう活動の提供	
将来の生活や社会参加につながるよう卒業後の移行を見据えた支援や余暇の充実	
自分らしく過ごせる居場所になるよう安心して過ごせる環境調整をしたり、自ら気付くよう共に考えることを大切にしている	
農業における親和性や自然とのふれあいを通して、将来的には就労支援につなげていく支援をプログラムの中に入れて体験してもらうこと	
障害、疾患のある子どもたちの集団活動(医療ケア児を含む)	
子どもたちが社会生活に必要なソーシャルスキルの向上を目指す	
障害を持っていても自分らしく生活する為の社会資源の提供	
利用者に寄り添った支援の提供	
指定障害児相談支援事業所の意見	
住み慣れた地域で自分らしさを大切にしながら生活できるよう、またおとなになっても地域の方々にかわいがられるように日常的に地域交流などを行っている	
地域住民、市、関係機関が集える意見交換の場への参加	
未就園の子どもと親が集える場所作りと相談	
発達の遅れが心配な方の相談、療育へのつなぎ	
放課後等デイサービスで療育	
相談支援	
障害のある子どもの成長発達に繋がる支援サービスの連絡調整	
将来の自立に向けた課題整理と解決に向けた取り組むべき方法の検討	
障害のある子どもの育てづらさを抱えた保護者への相談支援	
障害福祉サービスを利用する障害児を対象に、ケアプランの作成やサービスの利用調整などを実施	

その他回答	
その他の意見	
地域の全ての人たちが自信を持って安心して生きていけたらいいなと願って、しゃべって、集まって、食べて、思いやれる場がほしい(作りたい)と思ってさとの会を作った。食べること、遊ぶこと、語りあうこと、さまざまな交流活動を行ってきている	
おはなし会・乳幼児親子、未就学児、小学生など、それぞれを対象とした内容で実施している ブックデビュー事業・これからパパ、ママになる人を中心にお腹の赤ちゃんへ言葉かけを行うことの効果や方法を紹介している ボランティア支援事業・活動してくれるボランティアを養成する講座の実施。ボランティア活動の支援	
子どもたちの登下校の見守り 赤ちゃん訪問、幼児訪問を実施 子どもたちを対象にした地域行事への参加、子ども会への運営支援 地域の指導者として学校などでの学習や遊びに関わる	
子どもで言えば障害児相談、ファミリーサポートセンター、家庭児童相談室、基幹型子育て支援センター、ゆめもくば。総合的な支援を目指している	
託児事業 安全に気を付け安心してもらえるよう心掛けている	
発達障害児に関する地域の一環した支援体制の構築を目的として、現在は①地域の障がい受容獲得に資する活動(研修、実態調査、啓発)②支援者のスキルUP活動(意見交換会など)も実施している	
保護者サポート、子どもたちの安全	

【自治協のみの設問】問6-1① 取組（事業）への1回あたりの参加人数（子ども）（自由記入）

回答	
3	60
6	60
8	100
15	100
15	1. 30、2. 20
20	1. 5、2. 18、3. 100
20	10～35
24	①80、②80、③40
25	20～40
30	50～70
50	学校全体もあれば5学年、6学年対象の時もある コロナ前 50、コロナ後 20 限定

【自治協のみの設問】問6-1① 取組（事業）への1回あたりの参加人数（大人）（自由記入）

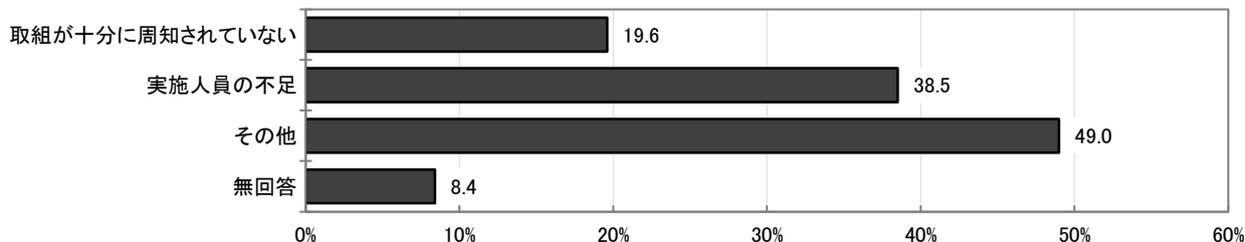
回答	
0	40
4	100
5	100
5	1. 0、2. 3、3. 不明
5	1. 20、2. 40
6	10～20(イベントにより異なる)
6	100+スタッフ 50
10	30～35
15	5～30
20	おおむね児童の8割方
20	クリスマス 20～30、運動会 50～80
20	

問7 取組（事業）を進める上での課題（MA）

「その他」が49.0%で最も高くなっています。次いで「実施人員の不足」が38.5%、「取組が十分に周知されていない」が19.6%で続いています。

活動として“地域の課題解決”を行っている団体では「実施人員の不足」が比較的高くなっています。

(MA) n=143



主な活動クロス	上段:実数 下段:%	全体 n=113	子どもの教育・保育 n=50	親子の集いの場 n=38	子育て世帯の相談 等のサポート n=38	障害をもつ子どもの 援助 n=52	地域の課題解決 n=18	その他 n=15
取組が十分に周知されていない		24 21.2	9 18.0	14 36.8	9 23.7	8 15.4	6 33.3	6 40.0
実施人員の不足		49 43.4	18 36.0	15 39.5	12 31.6	24 46.2	8 44.4	6 40.0
その他		50 44.2	22 44.0	16 42.1	21 55.3	28 53.8	7 38.9	6 40.0
無回答		7 6.2	5 10.0	2 5.3	3 7.9	3 5.8	1 5.6	-

【主な意見の抜粋】

- 子どもが少ない事、活動資金不足、人材不足などが意見としてみられる。

【参考】AI を活用したとりまとめ

- イベントや活動の運営費用
- 活動資金や予算の不足
- 教育機関との連携や協力体制
- 金銭的負担や物価高騰
- 子どもの安全や環境整備
- 障害児の認定に関する問題
- 新しい取り組みやネットワーク作り
- 人員や人材確保の難しさ
- 地域との関わりや理解度の低さ
- 保護者との信頼関係や理解

その他回答

住民自治協議会の意見

- 1)について。特に未就学児対象の「親子であそぼう in りゅうおう」で対象者が把握できない
- 今は子どもたちに何を提供したら、またしてあげたらと新しいことにチャレンジしている
- 学校の「地域移行」について組織的な「しくみ」づくりはこれから
- 子どもがいない
- 子どもがいない。子どもが歩いて来れない。自治協内に小学校がない
- 支援スタッフの高齢化
- 事業関係者が打ち合わせ、連携を図りながら実施している
- 小学校との連携
- 小学校の統合により小学校区と自治協エリアが違う為広報が難しい
- 地域の全戸へチラシを配布して周知しているが、もう少し参加者を増やしたい
- 伝承担い手の高齢化

その他回答	
	特にこのような小学校児童が多く参加してくれる事業の場合、職員や学校施設などとの連携・調整が必要だが、「働き方改革」との兼ね合いが難しくなっていると思う
	取り組み(事業)の継承
	人集め(おとなで手伝える人)、場を設定する準備、おとなの共通認識
	放課後こども教室の英語指導。月1回では学習内容の定着が難しい
	予算
私立保育所・認定こども園の意見	
	おとなの側の心の余裕
	子どもの安全面の充実
	多世代が利用しやすい環境づくり
	なかなか保育の現場から抜けての研修が難しい
	本社と現場、相互理解ができていない
	障害児の認定をしてもらえないこと
認可外保育施設の意見	
	環境整備(室内、園庭)
	広報に企業主導型の園庭開放は載せられないと言われた
	コロナ収束後からの新たな取り組み
	入園児が減少している
	保育士不足
幼稚園の意見	
	保護者の支持あつての教育活動
子育て支援センターの意見	
	事業する上で親が中心となって活動するので、子どもの参加が難しい面が多くある。その為支援員が子どもの保育をする場合が多い。親も子どもが気になりなかなか集中できないことも多い。事業内容の見直しが必要と思われる
	資金
	広い部屋の確保が頻繁にできないこと
	利用者が多く、イベントなどお断りすることがある
子育てサークル・サロンの意見	
	新しい取り組みへのネットワーク作り
	活動資金が十分でない
	活動を始めて8年目になるが、月1回の活動内容を考える時に地域との関わりができれば良いと思っているが、なかなか実現しづらい
	資金
	私自身体調不良の為、現在は休止している。来春(5月)再開に向けて準備中である
放課後児童健全育成事業(民間)の意見	
	小学校の働き方改革に伴い、児童を預かる時間が増えるが、補助金が変わらない(人件費が増える)
	双子のつどいでは多くて7組くらい集まると子どもの人数が倍になるので、スタッフの人数が足りないと感じる時がある。1月から4人体制を5人体制にする
地域サロンの意見	
	運営費(社協の予算、フードバンクなどの活用はしているが)。お願いとしてお出掛けに伴う社協のバス代、運転士さん謝礼、ガソリン代などは保護者負担なしにいただきたい
	今後長く継続していく為の後任者の確保
	世話人の高齢化
	地域の理解度が低い。ボランティアなどの協力が得にくい。補助金不足にて他の収入で補填している(社協の補助金1万5千円のみ)
	特にはないが、人気のあるイベントにはキャンセル待ちが出てしまうこと(ほっぺちゃんクラブ)

その他回答
児童発達支援の意見
親のニーズとのギャップ
学校や園との協力体制
関係機関などとの共通の視点が持ちにくい
送迎。遠方が多い為時間がかかる
障害児通所施設の意見
運営していく為の費用がかかるので、利用者負担が大きくなる
空間の狭さ、送迎時の渋滞、立地の悪さ
支給日数 23 日をもらっている利用者が多く、本当に支援が必要な児童の利用ができないように思う。支給日数はもっと厳格にすべきだと考える
普通級に在籍する高学年が月～金まで利用していた過去がある。窓口で 23 日あった方が夏休みなど困らないと助言されて 23 日に変更した人もいる
資金不足。改定で報酬が下がる一方、職員には給料を上げて行かないといけない。コロナの代替支援が終わり、今は利用者のインフルエンザ、アデノウイルスなどの感染症が多く欠席が続くので困っている(今月はインフルエンザ警報が出て利用者が次々に感染して休んだ。その対策として何かあったら助かる)
人員を増やすと経営していけないような報酬単価(低給料)
スタッフの人材確保(専門職)が難しい
物価高騰による金銭的負担
放課後なので遅い時間や土祝の勤務、送迎業務がネックになっている。職員の定着が厳しい
他の関係機関や学校との連携をもっと取れると良い
指定障害児相談支援事業所の意見
教育機関との連携
その他の意見
特性に合った支援を周知徹底。また保護者の理解を得ること
事項力のある事業との連携(発達障害児支援)
同日に2、3ヶ所違う場所での託児が重なるとスタッフの調整が必要となること。ぎりぎりまで託児人数が決定しないこと
不在、訪問拒否、保護者との信頼関係構築、プライバシー問題が課題
継続資金。継続する為の人材

【自治協のみの設問】 問 7-1 取組（事業）を利用しやすくするための予定（自由回答）

その他回答
今のところはこのままの内容で実施していく予定である
今のところ予定なし
今まで通りで地域センター、住民自治協議会、民生委員協議会、図書館、いきいき子どもクラブ、小学校など地域の連携の元進めて行きたいと思う
今までの実績を基にしながら地道に行事を行っていくことが重要だと思う
学校や市のポータルサイトの活用
気軽に行事に参加できるような雰囲気作り。人数の確保。お手伝いの方々の確保。後継者への継承
行政として小さな事業に地域が取り組む場合、人数単位で補助金制度があるとよりやりやすい
現在取り組んでいる事業は体躯振興部会・青少年育成部会を中心に中小との連携で取り組んでいる。このため授業の一環として位置づけられており、今後も自治協の継続事業として企画運営していく予定
広報、小学校との連携
広報の充実努め、我々の事業内容をよく理解してもらおうところから始めたいと思っている

その他回答
子どもが活躍できる場の設定の工夫 共通認識をして子どもをフォローする
子どもが参加しやすい内容を探す。親の理解と周知
子どもが少ないのでなかなか事業ができないこと
子どもたちが増えたら事業をしやすいと思う
参加しやすい日程、時間、内容を計画する
事業開催の事前広報を十分に行い、参加者の拡大を図っていきたい
自治協内に小学校が必要
主目的以外のことも事業の中に取り込んで参加者を増やしていく。例えば星を見る会では花火をしたり、アイスクリームなどを配布したりなどいろいろ。ウォーキング大会では飲み物や記念品、景品を出したりする
小学校との連携をより良いものにする
人材確保と財源をサステナブルで考える為の組織づくり
特にないが、小規模校でもその特色を生かした教育活動ができるよう統廃合はしないでほしい
放課後こども教室での子どもの学習意欲を高める為に、年に1回くらい留学生に参加してもらい、子どもたちに実際に英語を使う場面設定をしたいと思っている
保護者会との話し合い

その他回答
住民自治協議会の意見
今のところはこのままの内容で実施していく予定である
今のところ予定なし
今までの実績を基にしながら地道に行事を行っていくことが重要だと思う
学校や市のポータルサイトの活用
気軽に行事に参加できるような雰囲気作り。人数の確保。お手伝いの方々の確保。後継者への継承
行政として小さな事業に地域が取り組む場合、人数単位で補助金制度があるとよりやりやすい
現在取り組んでいる事業は体躯振興部会・青少年育成部会を中心に中小との連携で取り組んでいる。このため授業の一環として位置づけられており、今後も自治協の継続事業として企画運営していく予定
広報、小学校との連携
広報の充実努め、我々の事業内容をよく理解してもらおうところから始めたいと思っている
子どもが活躍できる場の設定の工夫 共通認識をして子どもをフォローする
子どもが参加しやすい内容を探す。親の理解と周知
子どもが少ないのでなかなか事業ができないこと
子どもたちが増えたら事業をしやすいと思う
参加しやすい日程、時間、内容を計画する
事業開催の事前広報を十分に行い、参加者の拡大を図っていきたい
自治協内に小学校が必要
主目的以外のことも事業の中に取り込んで参加者を増やしていく。例えば星を見る会では花火をしたり、アイスクリームなどを配布したりなどいろいろ。ウォーキング大会では飲み物や記念品、景品を出したりする
小学校との連携をより良いものにする
人材確保と財源をサステナブルで考える為の組織づくり
特にないが、小規模校でもその特色を生かした教育活動ができるよう統廃合はしないでほしい
放課後こども教室での子どもの学習意欲を高める為に、年に1回くらい留学生に参加してもらい、子どもたちに実際に英語を使う場面設定をしたいと思っている
保護者会との話し合い
地域サロンの意見

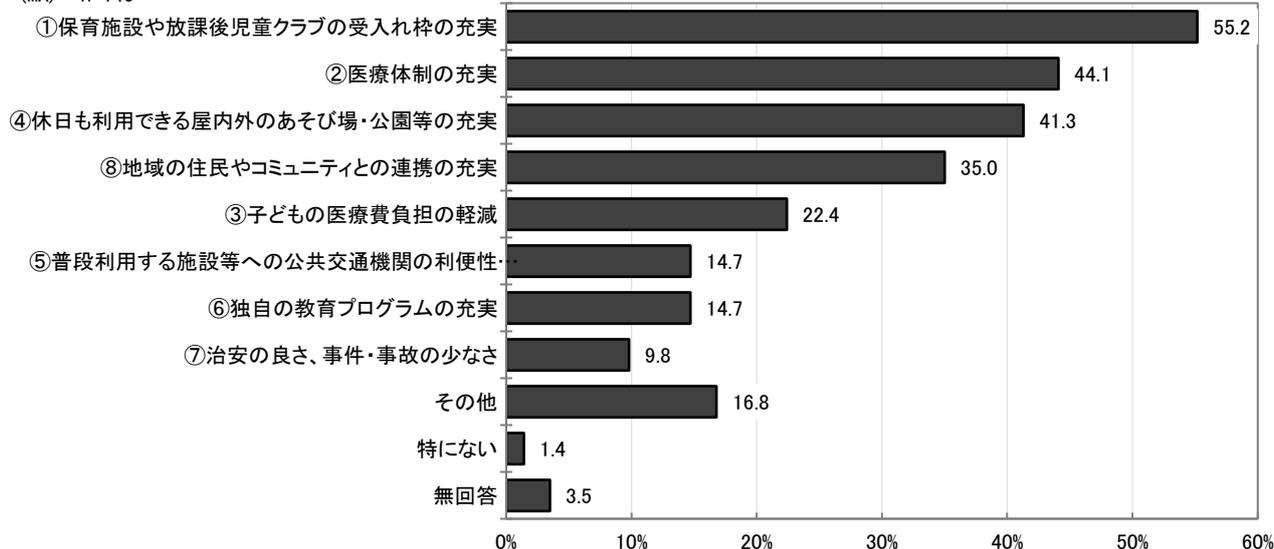
その他回答	
	今まで通りで地域センター、住民自治協議会、民生委員協議会、図書館、いきいき子どもクラブ、小学校など地域の連携の元進めて行きたいと思う

問8 東広島市を子育てしやすいまちとするために必要なこと (MA)

「保育施設や放課後児童クラブの受入れ枠の充実」が55.2%で最も高くなっています。次いで「医療体制の充実」が44.1%、「休日も利用できる屋内外のあそび場・公園等の充実」が41.3%で続いています。

活動として“地域の課題解決”を行っている団体では「地域の住民やコミュニティとの連携の充実」が比較的高くなっています。

(MA) n=143



主な活動クロス	上段:実数 下段:%	全体 n=113	子どもの教育・保育 n=50	親子の集いの場 n=38	子育て世帯の相談 等のサポート n=38	障害をもつ子どもの 援助 n=52	地域の課題解決 n=18	その他 n=15
保育施設や放課後児童クラブの受入れ枠の充実	68 60.2	68	30	23	24	28	10	12
医療体制の充実	55 48.7	55	24	19	22	27	9	8
休日も利用できる屋内外のあそび場・公園等の充実	48 42.5	48	21	16	12	23	6	6
地域の住民やコミュニティとの連携の充実	36 31.9	36	16	15	13	15	9	7
子どもの医療費負担の軽減	19 16.8	19	12	5	7	7	3	-
普段利用する施設等への公共交通機関の利便性向上	17 15.0	17	6	5	9	11	2	1
独自の教育プログラムの充実	16 14.2	16	10	3	5	9	3	-
治安の良さ、事件・事故の少なさ	12 10.6	12	6	3	2	6	2	2
その他	21 18.6	21	8	7	8	10	2	3
特にない	1 0.9	1	1	-	-	-	1	-
無回答	3 2.7	3	1	3	1	1	1	1

その他回答

JR 山陽本線の安全性

PTA などの学校行事の外部委託。オンライン授業、対面授業を選べるようにしてほしい(ICTの活用)

一時保育受け入れの充実

居場所作り

給食費の無償化

給食費無料

軽度障害児に対しての手当て

高校までの継続した支援と保証

子育て関連の窓口の一本化

その他回答
子育て世帯への税制の改革
子どもの居場所作り
相談支援員の増加
通学路の安全確保
発達障害児に対する相談、支援体制強化
発達障害児の生活及びライフステージごとの一貫した支援体制
病児保育、休日保育、一時保育
病児保育の拡大
ファミサポがもっと気軽に利用できるよう金銭的サポートをする
普通科の高校が少ない
不登校の子どもや障害を持つ子の理解
保育士の確保
保護者の方が気軽に相談できる場の充実
ユニバーサルデザインの街

問8-1 問8の理由（自由記入）

【主な意見の抜粋】

- 総じて、子どもと親が安心して生活できる環境、子育て世代の親が働きながら自分らしく生きていける環境づくりが求められている。
- 子育て世帯(親)の育児負担軽減のための支援や働きたい母親の社会復帰に向けた支援、医療(病院)の充実、あそび場等の居場所の確保が挙げられる。
- 課題を抱える子どもに対しての支援についても挙げられている。

【参考】AIを活用したとりまとめ

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| • 安全な街づくりと治安の維持 | • 子育て世代の就労や生活の困難さ |
| • 医療機関の不足と待ち時間 | • 子育て世代の働きやすさ |
| • 医療機関の予約が取りづらい | • 子育て中の母親の社会復帰困難 |
| • 教育の質や教育プログラムの充実度の問題 | • 子供の遊び場や公園の不足 |
| • 教育環境の充実が望まれる | • 小児科や産婦人科の医療機関不足 |
| • 公共交通機関の便数や運行の不安定さ | • 障害を持つ子どもへの支援の不足 |
| • 子どもの安全と保護者の安心 | • 障害を持つ子供への配慮不足 |
| • 子育てにかかる費用の負担 | • 生活費や教育費の負担軽減 |
| • 子育て家族の経済的負担 | • 地域コミュニティとの連携不足 |
| • 子育て環境の改善が必要 | • 地域コミュニティの連携強化 |
| • 子育て環境の物理的な不便さ | • 発達障害児への支援体制の不備 |
| • 子育て支援の充実が求められる | • 保育園や学童への入園困難 |
| • 子育て支援の体制や施策の不足 | • 保育士不足と待機児童問題 |
| • 子育て支援施設の不足と利用困難 | • 保育所や学童の受け入れ枠の不足 |
| • 子育て世代の孤立感やコミュニティの欠如 | • 遊び場や施設の不足 |

その他回答
住民自治協議会の意見
②特に幼児が突然調子が悪くなった時などに、すぐに診てもらえると安心できると思う
⑦安心して町を歩ける、人と関わることができる町が安心して過ごせる町だと思う
⑧悩みごとを相談できたり喜びを共有できたりする町が安心できる町だと思う
③子育てに要する負担軽減策として
④子どもが自由にのびのびと利用できる場所が必要(トイレの設置も要望)
⑧子育ての場に世代間の交流の機会が減少している為、連携の充実が望まれる
5. 小児科のある総合病院へ通院する際バスの本数がなくて困るので
8. 地域によっては子どもとの関わりがあまりないので
安心して子育てできる環境整備
保護者の負担軽減
家の中での遊びから外へ出て遊ぶ環境を作る
医療施設(子ども用)がない
休日、夜間診療の施設が少ない。平日は休診し、日曜日に対応してくれる病院がもっと増えてほしい。給食費が無料になるのは助かる
緊急時など近くに病院がない
現在取り組んでいる事業を推進していく為
子育て環境の優先順位として3つを選択した
子育てしやすい町とは東広島市中心部だけのことだろうか。福富、豊栄、河内などの子育てしやすい町をもっと考えてほしい
子どもが集まって何でも取り組みができる楽しい施設が整備されると良い(財源の確保、場の設定、意図の周知徹底)
子どもとその親の居場所づくりが大切
子どもの足の確保
小松原地域で公園や遊び場がない為
地域として考えること、大事なことは地域住民保護者の方々に地域の活動がどれだけご理解いただいているかということ、またこの地域に住んで安心だと思っていただく為に日々あらゆる範囲で活動している
町内にクリニックが一つ、歯科が一つしかない
共働き世帯に必要な不可欠であると思うから
ハード面、原保育所の移転課題があり、保幼小連携が必要である。単純な物理的接近だけではなく、ソフト面を考えた施策が急務。世界に立遅れている日本の教育を少しでも支援したい。ここ東広島市は学園都市と宣言するのであれば、東の筑波大、西の広大を考えてほしい
窓口があっても本当に来てほしい人は相談につながらない
活動を通じて顔を合わせることで人を知ることが大切だと感じる
吉川には室内外共に遊び場がないので
私立保育所・認定こども園の意見
①市内中心部の保育所の受け入れ枠(特に0歳児)をもっと充実させる。こっちに來られては出て行かれる
②予約がいっぱいで思うように受診できない現実(小児科)がある
①保護者から「三永太陽に入園したいのに入れない。ずっと待っている」との声をよく聞く。現在当園では床面積いっぱいの子童数を受け入れて誰かが退園しなければ入園できない状態である。子育てしやすい町に向けて改善が必要である
⑥当園では0、1、2歳クラスは担当制保育で丁寧な関わりの保育をしている。保護者から丁寧な保育が好評を受け、独自の教育プログラム充実が子育て支援につながると思う
④雨の日、寒い日、暑い日は「行くところがないので支援センターに來た」との声が多くある。休日も支援センターの要望があり、休日でもいつでも利用できる場所がもっと必要だと思う
②予約がすぐ埋まってしまい、受診ができないという現状が多いようである
安心、安全に子育てに余裕を持って楽しみながら生活をできる為に必要

その他回答	
	安心して子育てする為には必要な制度だと思われるので
	医療費負担は若干改善されたものの、ゴミ袋(ピンク、水色)、水道料金などが高過ぎる
	園児の体調が悪く、病院受診ということも多々あるが、診察待ちに時間がかかったり、予約が取れなかったりするなどの意見を聞くことがある
	園の特色を持たせる為
	子育てを安心して行うことができる条件として治安の良さが一番だと考える。子どもは自分で自分を守ることができないので。次に保護者が仕事をしながら子育てをするならと①と②を選んだ
	子どもが集団を通して学べる場が必要。また休日は家族と一緒に楽しめる場が多くできれば良いと思う(親、子共にストレスの発散の場があると良い)
	子どもが増えているが、遊び場が少ないと感じる。出かけても人が集中して諦めて帰ったという話を聞いたことがある
	志和地区は新しく住宅を建てにくい状況にあることや交通の便が悪いことが、新しく若い方に来てもらうことが難しい。遊び場が少ない為、若い方の交流の場が少ない気がする
	税金が高いと聞くことがある
	病院受診が難しくなっていると聞く(予約が取れない、検査してもらえないなど)。特に小さな子どもの受診がスムーズに行われるよう、また遊び場やイベントなどが増えると外へ出かける機会が増えていい
	保育中にケガをした場合、手術もできる医療体制の院に連れて行かれれば子どもを早く処置できる
認可外保育施設の意見	
	0～2歳までの保育を希望している人は多いが、登園でも受け入れ枠のしぼりがあり難しい場合が多い。小規模保育事業の予算の拡大により、認可園としての機能が果たせる園が増えていくと良いと思っている
	1、2歳の乳児の受け入れについて問い合わせに来られることが多い(C&Eは乳児は受け入れていないが、今後認可で受け入れをしていけたらと思う)
	①利用したいところが利用できない現状
	④安心して子育てができる環境作り
	⑧地域活性化
	今の状況だと子育てしやすいとは思えないから
	保育、小、中学校など成長するごとに悩みが増えて行くから
	受け入れを行う中で問い合わせが多く困っている人にも枠がいっぱいでは断らなければならなかった現状があった為
	教育、保育の本質を理解し合える人々、地域コミュニティとの連携を図り、家族が孤立しないよう何でも話せる人とのつながりを大事に作っていく。できる限り一時保育の受け入れの充実を図る
	県で推奨している「広島自然保育」を東広島市でもっとPRしてほしい。魅力ある教育を求めて移住する人もいるので(子育て世代にいろいろな教育の選択肢があると良い)
	保育施設への入りやすさ、兄弟姉妹は同じ施設に通える。病児保育、休日保育の充実
	東広島は多国籍の子どもたちも多く、日本人だけでなくさまざまな子どもたちが過ごしやすく保護者も子育てしやすい町にしていく必要があると感じている
幼稚園の意見	
	子育てをしている立場として充実させてほしいと願っているから
	これからはつながりを深めて行く時代と言われていて。その為いろいろな場でコミュニケーションを取れる必要があると思ったので
子育て支援センターの意見	
	①以前と比べ比較的改善されているが、県外からの転入者や今から仕事を探す人にはハードルが高いと感じている
	②利用者さんから受診したくてもネット予約でいっぱいになってしまい切実に困っている
	③東広島市は車社会だが、車を持っていない人にも気軽にいつでも使えることができれば出かけてみようと思う気持ちになる
	①保育園に入れたいが、入れない。産後2ヶ月経過すると上の子は退園しなければならない。幼稚園に入れたいが近くの幼稚園に入れたい

その他回答	
②お産可能な病院が減っている	
⑧近所や子育て世代の関わりが減少し、孤立しやすい社会。また祖父母世代との交流も少なく、子育ての協力者が得にくい社会	
核家族や共働きが増えている中、急に病気にかかった時に預ける場所が少ないとの声を聞く	
子育てしながら働きたい人達への支援が遅れていると感じているから。保育所に入所できず社会復帰のチャンス逃している若い世代が多く、社会資源としての損失をしていると思うから。また小児科に通いたい、急病で診察をお願いしたい、と思ってもなかなかかなわず体調不良の子どもと過ごす不安な時間があるから	
子どもの受診が難しい状況がある(予約が取れない)	
産科がもう少しあってもいいと思う。他市ではインフルエンザなどで予防接種に対しての補助もあると聞いている	
保育園、子ども園に入園希望してもなかなか入園できないので不安。大多数の親が子どもを入園できるように要望していた	
子どもの遊び場(公園)が少ない。子どもが楽しめる公園を設置してほしい	
地域のコミュニティと連携しているところもあるが、できていないところもある	
保育園になかなか入れないと聞くので	
保育園に入れず、学童に入れず困っている人がたくさんいる	
小児科の予約が取れない、行きたくても行かれない	
産婦人科が少な過ぎる	
保育に携わる人員不足。現状の把握してほしい	
保護者からの相談を受ける中で最も多いのが保育園入所を希望してもすぐに入れない、保育園に入れないから仕事もできないということから	
来所している方から必要だという声が多い為。育休に入り、上の子が退園させられてしまうので大変という声もよく聞く	
子育てサークル・サロンの意見	
②小児科の数が少なく予約が取れない(WEB 予約も1分経たずに満員。電話をかけてもどこもつながらず困る)	
⑥⑧大学や留学生、海外の方も多い東広島の強みを活かすことで、子どもたちの教育プログラムや子育て環境はもっと魅力的なものにできる可能性を秘めていると感じるから	
安心して子育てできるまち、子育てをみんなで支え合える心温かいまちづくりが大切だと思う	
医療体制の充実→八本松、龍王地区など、急激な人口増加に伴い、小児科がパンクしているように思える	
海外の教育に比べて教育環境が充実していない。一人ひとりのニーズや多様性が大切にされるまちになってほしい	
学校の先生方の理解や学校生活の配慮に欠けている	
子育て期、特に就学前の保護者は「自分の為」の時間がほとんど確保できない。寝る時間も十分でないママもいる。美容室、映画館、ショッピング、茶話会など、もっと気軽に出かけられてリフレッシュして子育てを楽しめるようなサポートがほしい。三次の「森のポッケ」系の質の高い室内遊び場は森林の多い東広島にもぴったりの施設ではないだろうか。放課後児童クラブが各小学校区にあると保護者は助かる	
子育て世帯がとても多い(増えている)が、制度や環境が追い付いていないと感じるから。地域のつながりが築きにくいと思う	
子どもも親も安心して暮らせる街にすることが大切だと思う。その為には医療の充実やもしもの時の預け先の充実、コミュニティの連携の強さが必要だと思った	
産婦人科の不足。子どもができて産むところが少ない。小児科の予約が困難な現状。発達支援の不足。発達検査も予約待ちで1年半もかかることもある	
保育施設・保育士不足。給料は安い。これでは保育士など保育に携わる資格があってもやらない人は多くなる。職員のモチベーションも下がる	
社会復帰をしたくてもできずにいる母親たちの為に保育枠の充実が必要だと思う。また子育て中にいろいろな課を回るのは大変なので、窓口の一本化は子育てしやすいまちづくりには必須だと思う。また小児科での受診はいつも混み合っていて困っているようすである	
小児科が少ない。その為受診したい時にできない	

その他回答	
	働くお母さんも増えて来て、休日、雨天の際などに利用できる支援センターがあると良いと思う。そこで母親同士の交流がまた新たにできると思う
放課後児童健全育成事業（民間）の意見	
	①母親たちが保育園に入所できないので不安そうだ ②少子化対策としても産婦人科、小児科を増やした方が良い ③物価高や季節の流行病、予防接種など負担が増えるので軽減してほしい ④真夏の公園は使用できなくなるので、上に屋根をつけるなどして使用できるようにしてほしい ⑤車を持っていない母親も多いので考慮してほしい。支援センターも日曜日を増やすなど
	JR 山陽本線の遅れ、運休が多い(天候による影響を受けやすい)
	いざという時や保護者が困った時にすばやく手厚く対応することで安心感を与えられる 子どもの為にいつでも手軽に利用できる施設が多いと親子での活動がしやすい
	核家族化が進み、また共働きの家庭が増えている為
	少子化で人口減が心配される中、今後日本を背負う子どもたちを貧困から守り大切に育てる為
	当子育て支援センターは日曜日も開放しているが、他施設がお休みのところが多く集中してしまい、利用できない家庭が出ている
	当施設の児童クラブは3人兄弟が多い。第1子は児童クラブ、第2子はA保育園、第3子はB保育園と3ヶ所の施設に迎えに行かなくてはならない。同時入所ができる体制を希望する。小児科もどこへ行っても一杯だそうで、小児科も足りないと感じられる
	物価高の社会となっているが、子育て家族の給与所得については改善されていない現実がある。共働き家庭を支える一方で、時間外に受診できる医療機関の充実が最優先課題だと思う為
	放課後児童クラブにおいて待機児童が毎年発生している為、預け先に困っている声をよく聞く。休日だけに限らないが、特に天気によって左右されることなく安心して遊べる場所が少ないとも聞く。県外からの転入者が多い東広島市において「つながり」は大切だと思うから
	放課後や土曜日の保護者の就労の難しさの改善 安心できる、子育てのサポートの充実
地域サロンの意見	
	①第2子が生まれた時の長子の年齢によっては上の子が退園しなくてはならない今の制度の変更。改善はされているが、実際園に空きがなく辞めなければならないという声をよく聞く ⑨子育て罰という言葉があるくらいお金がかかるのに税金は取られる。国がやる気がないので難しい
	②夜間の小児科対応してくれる当番医を増やしてほしい(特に夜中、病状が悪化したり発症することも多いので)
	③高校生までの医療費負担を軽減してほしい。インフルエンザの予防接種の助成があると助かる。子どもが複数いると何万円もかかるので負担が大きい
	④雨天時でも体を動かして遊べるところがいろいろあると助かる(さまざまな年齢層の子どもが楽しめる場所)
	安心感を得られる為
	子育て世帯が増えたら良い 住みやすい環境づくり
	子育て対応の市活動充実により地域で見守る対応が必要
	自由な遊び場などがなく体力低下あり。それには地域の協力の将来を見越した取り組みが必要である
児童発達支援の意見	
	1. 共働き世帯が多い 4, 8. 交流の機会が少ない
	1. 幼保や学童の配慮が必要な子への理解や支援の充実及び人員配置 2. 初診待機期間が長いことや1, 6, 3健での医師の対応について検討が必要
	①人員の問題はあるが、必要としていることを聞くことが多いと感じる為 ⑤地方都市に共通しているが、車がないと生活の中で利用する設備が限られていること
	子育てをしやすい町を目指す中で、必要と感じる内容である。特に発達外来がある病院がまだ少ないので、受診がなかなかできない、待機しているとの声を聞く

その他回答	
	子どもたちの発達特性と既存の教育をはじめとするさまざまなシステムがマッチしていないと感じる
	セルフプラン率が高く、子どもが適切に伸びるのは相談員がついていた方が高い
	地域の中で生活のしづらさを感じている人が当事業所を含む福祉サービスを知り、生活の幅を広げる為に活用してもらいたい為
	定員の空きがなかったり、子どもとの家での時間が長いことで育児負担を感じる保護者もいると思う。また子どもの社会性などの部分でも同年代の子どもと関わる機会が必要である
	保護者が気軽に相談できる場(相談員、同じ子育てをしている人との座談会など)が広がると育児負担も軽減されるのではないかと思う
	発達障害についての受診待ちが非常に長い状況がある為
	市全体で相談支援体制や人材の育成
	発達障害の子どもが医療機関を受診しようとしても予約すら取れない状態で困っている
	東広島はファミリー世帯が多い為
障害児通所施設の意見	
	①②子どもを育てて行くうえで安心して預ける場所が充実してほしい。病気や障害などを抱えている子どもを東広島市内で診てもらえるような子ども病院を作る
	⑥支援組の子どもたちの為の教育制度の向上と専門職員の配置
	2. 障害のある方の受け入れをしてくれる病院が少ない。待ち時間が長い
	4. 室内で安心して遊べる空間がほしい
	5. 公共交通機関までの距離が遠い
	ADHD の診断に予約しても半年以上かかると聞くので
	また安心して遊べたり遊びに行く手段がない
	安心して子育てする為の医療機関が大切。さまざまな子どもの相談ができること。また、さまざまな特性のある子への対応できる教育プログラムとその支援者の資質が大切
	休日や長期休暇の子どもの過ごす場が少ないと思う
	子どもたちがのびのびと友だちと遊べる場が少ないと感じる
	子どもの余暇活動を充実させたい
	子どもを生み育てるまでにお金がかかる為、一世帯の収入が安定していることが何より重要だと思う。幼少期に負担を軽減しても高校、大学の方がよりお金がかかるのではと感じる
	コロナ禍になってタブレットを配布されていたけれど、また対面授業しか許可しないようになっている。学ぶ機会を学校に行きたくても行かれない子たちにも増やしてほしい
	共働きの家庭が増えて学校の役員やPTA が負担。病児保育をお願いできる場所があると安心感が大きい
	市の中心部に充実した室内外の遊び場、大きめの公園が少ない為
	発達障害の子どもへの検査が1年半待ちであったりするので、専門医療機関が増えると良いと思う
	市民の方への認知度を高めてほしい
	側溝の蓋が途中でなくなり、自転車で転倒した子どもがいた。車を避ける為端に寄ったらベビーカーのタイヤが溝に落ちたと保護者から聞いたので、安全に子どもたちが歩けるようにしてほしい
	普通級にいる学業不振の子どもたちには一斉学習について行かれず将来に亘ってトラブルを抱えている
	治安が良いことで安心して公園などを利用することができる
	医療の充実が親にとって安心につながる
	発達障害などの軽度障害児に対しては金銭的支援がなく、また申請しても認められないことも多く、子育てに必要な金銭で負担が大きいように感じている。保護者からもこういった内容の相談をよく受けている
	障害の有無、度合いに関わらず、多くの人を利用できる街だと思おう
	障害を持っている子どもたちへの配慮のある場所が少ないと思う
指定障害児相談支援事業所の意見	
	①障害の有無に関係なく保育所や児童クラブで必要なサポートが受けられること。支援者の配置があり体制が整うこと
	②家族へのサポート体制が充実し、利用の待機がないこと

その他回答	
④	体調などを考慮し、室内の遊び場を使いたいが、年齢制限があつたり、有料であつたり、選択肢が少ないと感じる
⑤	地域的な難しさはあると思うが、便数の少なさ、運休など影響を受けやすい
⑧	他地域と比較すると活発であるようには感じるが、もっと活気づけたい
	学校への行きづらさを抱える子どもが家にこもりきりにならず、活動の機会や学ぶ機会が得られたり、保護者が子育てについての悩みを抱え込まずにいられる為に上記3点を挙げた
	ひとり親や、共働きでない家計が厳しい家庭が多く、土日祝が休業の勤務先でないことも多いことから、休日の子どもの預け先の確保は必要かと思われる
	障害のある子どもの児童クラブの受け入れが難しい。働く親にとって、預け先がない。働くことができない為
その他の意見	
	障害を持つ子どもたちがのびのび体を動かせる場がほとんどない為、安心して楽しめる場所がほしい
	どこも保育士不足ですぐに子どもを預ける場所が少ない
	働きたい時にすぐに就活できない(就職が決まっていないと保育所に入りづらいなど)
	発達障害児を支える各機関、家族の支援方法、方針がバラバラであり、統制の取れる者が不在である。また児童の居場所が少なく負担の偏りがある
	発達障害などに係る受診において待機が多くなかなか受けられない
	住んでいるところの近くに居場所や公園、親たちの集まれる場所は必要だと思う

回答	
	0～2歳までの保育を希望している人は多いが、登園でも受け入れ枠のしぼりがあり難しい場合が多い。小規模保育事業の予算の拡大により、認可園としての機能が果たせる園が増えていくと良いと思っている
	1、2歳の乳児の受け入れについて問い合わせに来られることが多い(C&Eは乳児は受け入れていないが、今後認可で受け入れをしていけたらと思う)
	1. 共働き世帯が多い 4, 8. 交流の機会が少ない
	1. 幼保や学童の配慮が必要な子への理解や支援の充実及び人員配置 2. 初診待機期間が長いことや1、6、3健での医師の対応について検討が必要
	①②子どもを育てて行くうえで安心して預ける場所が充実してほしい。病気や障害などを抱えている子どもを東広島市内で診てもらえるような子ども病院を作る ⑥支援組の子どもたちの為の教育制度の向上と専門職員の配置
	①以前と比べ比較的改善されているが、県外からの転入者や今から仕事を探す人にはハードルが高いと感じている ②利用者さんから受診したくてもネット予約でいっぱいになってしまい切実に困っている ③東広島市は車社会だが、車を持っていない人にも気軽にいつでも使えることができれば出かけてみようと思う気持ちになる
	①市内中心部の保育所の受け入れ枠(特に0歳児)をもっと充実させる。こっちに來られては出て行かれる ②予約がいっぱいで思うように受診できない現実(小児科)がある
	①人員の問題はあるが、必要としていることを聞くことが多いと感じる為 ⑤地方都市に共通しているが、車がないと生活の中で利用する設備が限られていること
	①第2子が生まれた時の長子の年齢によっては上の子が退園しなくてはならない今の制度の変更。改善はされているが、実際園に空きがなく辞めなければならないという声をよく聞く ⑨子育て罰という言葉があるくらいお金がかかるのに税金は取られる。国がやる気がないので難しい
	①母親たちが保育園に入所できないので不安そうだ ②少子化対策としても産婦人科、小児科を増やした方が良い ③物価高や季節の流行病、予防接種など負担が増えるので軽減してほしい

回答
④真夏の公園は使用できなくなるので、上に屋根をつけるなどして使用できるようにしてほしい ⑤車を持っていない母親も多いので考慮してほしい。支援センターも日曜日を増やすなど
①保育園に入りたいが、入れない。産後2ヶ月経過すると上の子は退園しなければならない。幼稚園に入りたいが近くの幼稚園に入れたい ②お産可能な病院が減っている ⑧近所や子育て世代の関わりが減少し、孤立しやすい社会。また祖父母世代との交流も少なく、子育ての協力者が得にくい社会
①保護者から「三永太陽に入園したいのに入れない。ずっと待っている」との声をよく聞く。現在当園では床面積いっぱいの子童数を受け入れて誰かが退園しなければ入園できない状態である。子育てしやすい町に向けて改善が必要である ⑥当園では0、1、2歳クラスは担当制保育で丁寧な関わり保育をしている。保護者から丁寧な保育が好評を受け、独自の教育プログラム充実が子育て支援につながると思う ④雨の日、寒い日、暑い日は「行くところがないので支援センターに来た」との声が多くある。休日でも支援センターの要望があり、休日でもいつでも利用できる場所がもっと必要だと思う
①利用したいところが利用できない現状 ④安心して子育てができる環境作り ⑧地域活性化
①障害の有無に関係なく保育所や児童クラブで必要なサポートが受けられること。支援者の配置があり体制が整うこと ②家族へのサポート体制が充実し、利用の待機がないこと
2. 障害のある方の受け入れをしてくれる病院が少ない。待ち時間が長い 4. 室内で安心して遊べる空間がほしい 5. 公共交通機関までの距離が遠い
②小児科の数が少なく予約が取れない(WEB 予約も1分経たずに満員。電話をかけてもどこもつながらず困る) ⑥⑧大学や留学生、海外の方も多い東広島の強みを活かすことで、子どもたちの教育プログラムや子育て環境はもっと魅力的なものにできる可能性を秘めていると感じるから
②特に幼児が突然調子が悪くなった時などに、すぐに診てもらえると安心できると思う ⑦安心して町を歩ける、人と関わるができる町が安心して過ごせる町だと思う ⑧悩みごとを相談できたり喜びを共有できたりする町が安心できる町だと思う
②夜間の小児科対応してくれる当番医を増やしてほしい(特に夜中、病状が悪化したり発症することも多いので) ③高校生までの医療費負担を軽減してほしい。インフルエンザの予防接種の助成があると助かる。子どもが複数いると何万円もかかるので負担が大きい ④雨天時でも体を動かして遊べるところがいろいろあると助かる(さまざまな年齢層の子どもが楽しめる場所)
②予約がすぐ埋まってしまい、受診ができないという現状が多いようである ③子育てに要する負担軽減策として ④子どもが自由にのびのびと利用できる場所が必要(トイレの設置も要望) ⑧子育ての場に世代間の交流の機会が減少している為、連携の充実が望まれる
④体調などを考慮し、室内の遊び場を使いたい、年齢制限があったり、有料であったり、選択肢が少ないと感じる ⑤地域的な難しさはあると思うが、便数の少なさ、運休など影響を受けやすい ⑧他地域と比較すると活発であるように感じるが、もっと活気づけたい
5. 小児科のある総合病院へ通院する際バスの本数がなくて困るので 8. 地域によっては子どもとの関わりがあまりないので
ADHD の診断に予約しても半年以上かかると聞くので また安心して遊べたり遊びに行く手段がない
JR 山陽本線の遅れ、運休が多い(天候による影響を受けやすい)
安心、安全に子育てに余裕を持って楽しみながら生活をできる為に必要 安心感を得られる為

回答
安心して子育てする為には必要な制度だと思われるので
安心して子育てする為の医療機関が大切。さまざまな子どもの相談ができること。また、さまざまな特性のある子への対応できる教育プログラムとその支援者の資質が大切
安心して子育てできる環境整備 保護者の負担軽減
安心して子育てできるまち、子育てをみんなで支え合える心温かいまちづくりが大切だと思う
家の中での遊びから外へ出て遊ぶ環境を作る
いざという時や保護者が困った時にすばやく手厚く対応することで安心感を与えられる 子どもの為にいつでも手軽に利用できる施設が多いと親子での活動がしやすい
今の状況だと子育てしやすいとは思えないから 保育、小、中学校など成長するごとに悩みが増えて行くから
医療施設(子ども用)がない
医療体制の充実→八本松、龍王地区など、急激な人口増加に伴い、小児科がパンクしているように思える
医療費負担は若干改善されたものの、ゴミ袋(ピンク、水色)、水道料金などが高過ぎる
受け入れを行う中で問い合わせが多く困っている人にも枠がいっぱいで断らなければならなかった現状があった為
園児の体調が悪く、病院受診ということも多々あるが、診察待ちに時間がかかったり、予約が取れなかったりするなどの意見を聞くことがある
園の特色を持たせる為
海外の教育に比べて教育環境が充実していない。一人ひとりのニーズや多様性が大切にされるまちになってほしい
核家族化が進み、また共働きの家庭が増えている為
核家族や共働きが増えている中、急に病気にかかった時に預ける場所が少ないとの声を聞く
学校の先生方の理解や学校生活の配慮に欠けている
学校への行きづらさを抱える子どもが家にこもりきりにならず、活動の機会や学ぶ機会が得られたり、保護者が子育てについての悩みを抱え込まずにいられる為上記3点を挙げた
休日、夜間診療の施設が少ない。平日は休診し、日曜日に対応してくれる病院がもっと増えてほしい。給食費が無料になるのは助かる
休日や長期休暇の子どもの過ごす場が少ないと思う
教育、保育の本質を理解し合える人々、地域コミュニティとの連携を図り、家族が孤立しないよう何でも話せる人とのつながりを大事に作っていく。できる限り一時保育の受け入れの充実を図る
緊急時など近くに病院がない
現在取り組んでいる事業を推進していく為
県で推奨している「広島自然保育」を東広島市でもっとPRしてほしい。魅力ある教育を求めて移住する人もいるので(子育て世代にいろいろな教育の選択肢があると良い)
子育て環境の優先順位として3つを選択した
子育て期、特に就学前の保護者は「自分の為」の時間がほとんど確保できない。寝る時間も十分でないママもいる。美容室、映画館、ショッピング、茶話会など、もっと気軽に出かけられてリフレッシュして子育てを楽しめるようなサポートがほしい。三次の「森のポッケ」系の質の高い室内遊び場は森林の多い東広島にもびつたりの施設ではないだろうか。放課後児童クラブが各小学校区にあると保護者は助かる
子育てしながら働きたい人達への支援が遅れていると感じているから。保育所に入所できず社会復帰のチャンス逃している若い世代が多く、社会資源としての損失をしていると思うから。また小児科に通いたい、急病で診察をお願いしたい、と思ってもなかなかかなわず体調不良の子どもと過ごす不安な時間があるから
子育てしやすい町とは東広島市中心部だけのことだろうか。福富、豊栄、河内などの子育てしやすい町をもっと考えてほしい
子育て世帯がとても多い(増えている)が、制度や環境が追い付いていないと感じるから。地域のつながりが築きにくいと思う

回答
子育て世帯が増えたら良い 住みやすい環境づくり
子育て対応の市活動充実により地域で見守る対応が必要
子育てを安心して行うことができる条件として治安の良さが一番だと考える。子どもは自分で自分を守ることができないので。次に保護者が仕事をしながら子育てをするなら①と②を選んだ
子育てをしている立場として充実させてほしいと願っているから
子育てしやすい町を目指す中で、必要に感じる内容である。特に発達外来がある病院がまだ少ないので、受診がなかなかできない、待機しているとの声を聞く
子どもが集まって何でも取り組みができる楽しい施設が整備されると良い(財源の確保、場の設定、意図の周知徹底)
子どもが集団を通して学べる場が必要。また休日は家族と一緒に楽しめる場が多くできれば良いと思う(親、子共にストレスの発散の場があると良い)
子どもが増えているが、遊び場が少ないと感じる。出かけても人が集中して諦めて帰ったという話を聞いたことがある
子どもたちがのびのびと友だちと遊べる場が少ないと感じる
子どもたちの発達特性と既存の教育をはじめとするさまざまなシステムがマッチしていないと感じる
子どもとその親の居場所づくりが大切
子どもの足の確保
子どもの受診が難しい状況がある(予約が取れない)
子どもの余暇活動を充実させたい
子どもも親も安心して暮らせる街にすることが大切だと思う。その為には医療の充実やもしもの時の預け先の充実、コミュニティの連携の強さが必要だと思う
子どもを生み育てるまでにお金がかかる為、一世帯の収入が安定していることが何より重要だと思う。幼少期に負担を軽減しても高校、大学の方がよりお金がかかるのではと感じる
小松原地域で公園や遊び場がない為
これからはつながりを深めて行く時代と言われている。その為いろいろなばでコミュニケーションを取れる必要があると思ったので
コロナ禍になってタブレットを配布されていたけれど、また対面授業しか許可しないようになっている。学ぶ機会を学校に行きたくても行かれない子たちにも増やしてほしい
共働きの家庭が増えて学校の役員やPTAが負担。病児保育をお願いできる場所があると安心感が大きい
産科がもう少しあってもいいと思う。他市ではインフルエンザなどで予防接種に対しての補助もあると聞いている
産婦人科の不足。子どもができて産むところが少ない。小児科の予約が困難な現状。発達支援の不足。発達検査も予約待ちで1年半もかかることもある
保育施設・保育士不足。給料は安い。これでは保育士など保育に携わる資格があってもやらない人は多くなる。職員のモチベーションも下がる
市の中心部に充実した室内外の遊び場、大きめの公園が少ない為
発達障害の子どもへの検査が1年半待ちであつたりするので、専門医療機関が増えると良いと思う
市民の方への認知度を高めてほしい
社会復帰をしたくてもできずにいる母親たちの為に保育枠の充実が必要だと思う。また子育て中にいろいろな課を回るのは大変なので、窓口の一本化は子育てしやすいまちづくりには必須だと思う。また小児科での受診はいつも混み合っていて困っているようである
自由な遊び場などがなく体力低下あり。それには地域の協力の将来を見越した取り組みが必要である
少子化で人口減が心配される中、今後日本を背負う子どもたちを貧困から守り大切に育てる為
小児科が少ない。その為受診したい時にできない
志和地区は新しく住宅を建てにくい状況にあることや交通の便が悪いことが、新しく若い方に来てもらうことが難しい。遊び場が少ない為、若い方の交流の場が少ない気がする
住んでいるところの近くに居場所や公園、親たちの集まれる場所は必要だと思う
税金が高いと聞くことがある

回答
セルフプラン率が高く、子どもが適切に伸びるのは相談員がついていた方が高い
側溝の蓋が途中でなくなり、自転車で転倒した子どもがいた。車を避ける為端に寄ったらベビーカーのタイヤが溝に落ちたと保護者から聞いたので、安全に子どもたちが歩けるようにしてほしい
普通級にいる学業不振の子どもたちには一斉学習について行かれず将来に亘ってトラブルを抱えている
治安が良いことで安心して公園などを利用することができる
医療の充実が親にとって安心につながる
地域として考えること、大事なことは地域住民保護者の方々に地域の活動がどれだけご理解いただいているかということ、またこの地域に住んで安心だと思っただけでなく日々あらゆる範囲で活動している
地域の中で生活のしづらさを感じている人が当事業所を含む福祉サービスを知り、生活の幅を広げる為に活用してもらいたい為
町内にクリニックが一つ、歯科が一つしかない
定員の空きがなかったりで、子どもとの家での時間が長いことで育児負担を感じる保護者もいると思う。また子どもの社会性などの部分でも同年代の子どもと関わる機会は必要である
保護者が気軽に相談できる場(相談員、同じ子育てをしている人との座談会など)が広がると育児負担も軽減されるのではないかと思う
当子育て支援センターは日曜日も開放しているが、他施設がお休みのところが多く集中してしまい、利用できない家庭が出ている
当施設の児童クラブは3人兄弟が多い。第1子は児童クラブ、第2子はA保育園、第3子はB保育園と3ヶ所の施設に迎えに行かなくてはならない。同時入所ができる体制を希望する。小児科もどこへ行っても一杯だそうで、小児科も足りないと感じられる
子ども保育士不足ですぐに子どもを預ける場所が少ない
働きたい時にすぐに就活できない(就職が決まっていなくて保育所に入りづらいなど)
共働き世帯に必要な不可欠であると思うから
ハード面、原保育所の移転課題があり、保幼小連携が必要である。単純な物理的接近だけではなく、ソフト面を考えた施策が急務。世界に立遅れている日本の教育を少しでも支援したい。ここ東広島市は学園都市と宣言するのであれば、東の筑波大、西の広大を考えてほしい
働くお母さんも増えて来て、休日、雨天の際などに利用できる支援センターがあると良いと思う。そこで母親同士の交流がまた新たにできると思う
発達障害児を支える各機関、家族の支援方法、方針がバラバラであり、統制の取れる者が不在である。また児童の居場所が少なく負担の偏りがある
発達障害などの軽度障害児に対しては金銭的支援がなく、また申請しても認められないことも多く、子育てに必要な金銭で負担が大きいように感じている。保護者からもこういった内容の相談をよく受けている
発達障害についての受診待ちが非常に長い状況がある為
市全体で相談支援体制や人材の育成
発達障害の子どもが医療機関を受診しようとしても予約すら取れない状態で困っている
東広島は多国籍の子どもたちも多く、日本人だけでなくさまざまな子どもたちが過ごしやすく保護者も子育てしやすい町にしていく必要があると感じている
東広島はファミリー世帯が多い為
ひとり親や、共働きでないと家計が厳しい家庭が多く、土日祝が休業の勤務先でないことも多いことから、休日の子どもの預け先の確保は必要かと思われる
病院受診が難しくなっていると聞く(予約が取れない、検査してもらえないなど)。特に小さな子どもの受診がスムーズに行われるよう、また遊び場やイベントなどが増えると外へ出かける機会が増えていい
物価高の社会となっているが、子育て家族の給与所得については改善されていない現実がある。共働き家庭を支える一方で、時間外に受診できる医療機関の充実が最優先課題だと思う為
保育園、子ども園に入園希望してもなかなか入園できないので不安。大多数の親が子どもを入園できるように要望していた
子どもの遊び場(公園)が少ない。子どもが楽しめる公園を設置してほしい
地域のコミュニティと連携しているところもあるが、できていないところもある

回答
保育園になかなか入れないと聞くので
保育園に入れず、学童に入れず困っている人がたくさんいる 小児科の予約が取れない、行きたくても行かれない 産婦人科が少な過ぎる 保育に携わる人員不足。現状の把握をしてほしい
保育施設への入りやすさ、兄弟姉妹は同じ施設に通える。病児保育、休日保育の充実
保育中にケガをした場合、手術もできる医療体制の院に連れて行かれれば子どもを早く処置できる
放課後児童クラブにおいて待機児童が毎年発生している為、預け先に困っている声をよく聞く。休日だけに限らないが、特に天気に左右されることなく安心して遊べる場所が少ないとも聞く。県外からの転入者が多い東広島市において「つながり」は大切だと思うから
放課後や土曜日の保護者の就労の難しさの改善 安心できる、子育てのサポートの充実
保護者からの相談を受ける中で最も多いのが保育園入所を希望してもすぐに入れない、保育園に入れないから仕事もできないということから
窓口があっても本当に来てほしい人は相談につながらない 活動を通じて顔を合わせることで人を知ることが大切だと感じる
吉川には室内外共に遊び場がないので
来所している方から必要だという声が多い為。育休に入り、上の子が退園させられてしまうので大変という声もよく聞く
障害のある子どもの児童クラブの受け入れが難しい。働く親にとって、預け先がない。働くことができない為
障害の有無、度合いに関わらず、多くの人を利用できる街だと思おう
障害を持つ子どもたちがのびのび体を動かせる場がほとんどない為、安心して楽しめる場所がほしい
障害を持っている子どもたちへの配慮のある場所が少ないと思う
発達障害などに係る受診において待機が多くなかなか受けられない

問9（1） 取組（事業）を通じて感じられる子どもが抱える課題（自由記入）

【主な意見の抜粋】

- 遊べる場所、遊べる相手、遊びの経験が不足している意見が挙げられている。
- 発達等障害に関する理解や保護者の対応に関する意見が挙げられている。
- 不登校や子ども自身のコミュニケーション力不足に関しても意見が挙げられている。

【参考】AIを活用したとりまとめ

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • 安心して話せる人の不在 • 子どものコミュニケーション能力が低下 • 子どもの安全な遊び場が不足している • 子どもの育成環境に問題がある • 子どもの学校生活に問題がある • 子どもの虐待問題が存在する • 子どもの居場所が不足している • 子どもの教育格差が存在する • 子どもの健康管理に問題がある • 子どもの自由な遊び時間が不足 | <ul style="list-style-type: none"> • 子どもの発達支援が不足している • 子供の遊び場の不足 • 人間関係や学習の課題 • 長時間保育の問題 • 通学環境の不便さ • 発達障害の子供の増加 • 福祉サービスの不足 • 保護者の仕事による子供の居場所不足 • 保護者の子育ての不安 • 友人との関わり方の問題 |
|--|---|

その他回答	
住民自治協議会の意見	
	遊び仲間がない
	安全に遊べる遊び場・スポーツの場所、広場
	家での遊びが多く、戸外にあまり出ない
	いじめ、虐待、ヤングケアラー
	居場所がない
	居場所の確保
	親の共働き
	子どもが少ない
	子どもたちに聞いてみてもらえないだろうか
	子ども同士放課後、休日遊びに行くのに遠過ぎる
	児童と先生の信頼関係が曖昧
	体験の不足
	通学環境の問題(不便さ)
	友だち同士の家まで距離がある為遊ぶ場まで送迎が必要である
	不登校
	保育園から中学、あるいは高校まで同じメンバーであること
	放課後、休日などに子どもが遊べる場が少ない(吉土実公園があるが、トイレは設置されていない)
	私が考えるにはどこの子どもも平等でお父さんお母さんの宝物である。この宝物を大事に育てるには少しの時間も惜むことなく子どもとの対話(お話)をたくさんしてあげてほしい。その中で親子の子どもながらの親しみを多く感じてくれると思う(全般的には少し低迷しているのではないかと思う)
私立保育所・認定こども園の意見	
	①規則正しい生活(食事、睡眠、排泄など)と健康な体について
	②親の不安定や気分、気持ちのムラによる子育て
	忙しい日々を過ごしている保護者が多いことは理解しているが、朝早くから夕方遅くまで保育園で過ごしている子どもや、朝食を食べなかつたり夜遅くまで就寝しない子どものようすを見るとおとなの都合に振り回され生活習慣が乱れている子どもが増えているように感じる
	親は週に何度か休みがあっても、子どもは週6日預けられ、ゆっくり休むことも親とふれあうこともできていない
	外国籍の子どもが多いが、受け入れる体制が整っていない
	発達に不安のある子どもの急増
	子どもも保護者も核家族が増えている、東広島市は通勤族も多いので、地域との関わりが疎遠になりつつある
	集団に交わりにくい子ども(発達障害の疑い)が増え、一人ひとりを個別に対応してあげたいが実現できていない
	地域性もあり、祖父母の協力を得られる家庭が多いように感じている。その為子ども、保護者共に抱える問題が大きくないように思っている
	長時間保育
	特別な支援を必要とする子どもの受け入れ施設が不足していることを感じる。地域の方々とふれあう環境が薄れてきている
	保育園などに通わないと他の子どもとの関わりが少ない
	保育時間が長い
	障害だとしても理解されない
認可外保育施設の意見	
	急に体調不良になった時に、保護者の対応がなかなかできないこと
	発達に支援が必要な子の通所施設が少ない。検査待ちが1年以上のこともある
	子どもたちが休みなく登園すること
	保護者と過ごす時間などが短かつたり少なかつたりして気持ちが不安定な子どもが多い

その他回答	
	自然の多い地域にも関わらず、実施はあまり自然体験をしていない子どもが多い。生活リズムが乱れていたり、食に偏りがある子どももいる
	長時間の保育が必要な乳児が多い 病気の時も保育が必要になっている
	発達 発達の未成熟(体験、経験の不足による身体的、精神的な発達) 色白な子が多い。食物アレルギーの増加。離乳食過程や食生活の意識低下による咀嚼力低下。自己肯定感(心の部分)の育ち。愛着形成
	現在さまざまなカラーを持った子どもたちが過ごしやすい環境での教育 一人ひとりの思いを一人ひとり見てあげられる体制を取れることでのびのびとした成長ができる
幼稚園の意見	
	子どもの人格を尊重した親子の関わり
	自分への自信のなさを若干感じる
子育て支援センターの意見	
	遊びの経験不足
	育児についてどのようにしたらよいか不安。支援センターに来所する子どもの成長、発達についてどうなのか考えることがある
	核家族化しているので、親とトラブルがあった時の逃げ場所がない
	子どもが遊べる場所の確保 コミュニケーション不足→トラブルが起きる
	発達障害などで検査を受けたくても予約が1年半も先であること。親の知識不足により適切な対応がなされないことがある。親の健康問題や経済的理由などで家庭での育児に難しい現状がある子に対してフォローが行き届かない(一時保育も施設側の人員不足や行事などで受け入れ困難である)
	発達の遅れを抱える子どもの増加(経験不足、親以外の他者との交流の減少)
	保育園入所問題 保護者が子どもの発達の凸凹があるかわからず、理解できず叱られたり適切な声掛けをしてもらえないケースがある
	保護者の過干渉による成長の妨げ 体験の少なさ
子育てサークル・サロンの意見	
	遊び場、居場所が少なく家にこもる傾向がある
	関わる人が少ないのでは。親、祖父母、おじおば以外はささやかなつながりしかないのでは。スマホ、YouTube、雑音、動画が溢れかえっていて、静かに退屈の中から編み出す遊びが作れない
	画一的教育で不登校や行き渋りが増えている。遊びの時間、空間が少ない為に人との接し方がわからない
	家庭環境の違いによって教育格差や体験格差が大きくなっている 虐待を受ける子どもの数が増加し続けている
	公園や遊び場が少ない。公園も今は夏暑く冬寒いのでなかなか遊ばせられる時期が短い。夏休み、小学生と幼児、乳児など年が離れていると過ごせる場所が少ない
	子どもは自分の意思を伝えることができるまでは親の決めた中に生きなくてはいけないが、親が決めた環境が子どもにとって適確とは言えないこともある。シングル家庭の子は我慢をしている子が多い(経済的な問題も我慢している)
	地域のインクルーシブ 友だちとの関わり方(人間関係) 困っていることを安心して伝えたり話したりできる人が周囲にいない
	保護者による過干渉からの経験不足。それによる発達の遅れ
放課後児童健全育成事業(民間)の意見	
	一部ではあるが、母親や父親が「忙しい」を理由に宿題などを見てやれない傾向がある。夏休みなどのお弁当が少し粗末な児童もいる

その他回答	
親やテレビ、YouTubeなどの影響か言葉使いが乱暴で他人に対する思いやりが少ない	
原因がはっきりしないが学校に通えなくなる	
公園遊びで野球など思いっきりボール遊びができない	
社会性や忍耐力が十分に身につけていない子がいる	
母親の育児や子育ての不安により、こどもがちよっと置き去りにされていることも見受けられる。どれが正解かわからないが、遊んであげる親、放置する、あまり話しかけない親、子育てに疲れている母親が多いので、子どもが愛情を求めているような気がする	
貧困、家庭内暴力、育児放棄	
メディア中心の生活となり、子ども間のトラブルについて解決していく力が減ったと感じる。ゲーム、YouTubeなど、一方的な検索をする遊びではなく、他者に寄り添い共感する育ちが必要だと思う	
地域サロンの意見	
「安全に遊ぶ」という意識が強過ぎて体の動かし方をうまく身に付けられない子もいる(はしごの登り方など)。家庭保育がメインの子どもは一定の子どもとの付き合いが多く、譲ったり一緒に遊んだりが難しい場合がある。親がSNSなどをやる為にスマホを見ていることがあり、母親が離れていても不安を感じず遊んでいる子もいる	
遊び(外遊び)の不足。自然とのふれあいの不足	
公園がない	
子どもたちがのびのび外遊びできる場所が少ない。もっと体を動かして遊びたい子が多いと感じる。また自然体験(草木、花、田んぼ、畑など)ができる機会が少ない	
子ども同士で遊ぶ機会が少ない	
コロナ禍以降、学校に行きにくい子どもたちが増えてきていること	
外に出ない子ども。室内遊びで良いものか	
保護者の仕事の為休みの日の居場所がない。自由に運動できる場がない。時に夏休みは不満感、負担感がある。近くの小中学校の校庭を使わせてほしい	
児童発達支援の意見	
1歳半健診や3歳児健診で療育が必要とされる子どもは増えているように感じるが、実際に利用できる場が少ない。また受診、利用するにも待機時間が長い	
朝昼夜の食事がお菓子やファストフードになっていてそれが当たり前とってしまった子もいる	
ありのままの自分が出せる環境や本人の困りごとに対して合理的配慮義務がされていない	
いわゆるグレーゾーンと呼ばれるような子どもが多く、困っていることが周囲に伝わりにくいことがあるように感じる	
生まれ持った特性ではない2次障害(家庭環境)による問題	
おとなの生活時間に合わせることで夜型の生活に乳幼児期からなってしまうこと	
学校、家庭以外の安心できる居場所	
対人関係を築くことの難しさ	
困りごとを発信することに困り、または適切な方法で発信することの難しさ	
良きせぬできごとの対処方法	
発達障害がある子どもの増加、早期療育が必要な子どもの増加	
発達障害、軽度から重度児のニーズ	
不登校	
障害児通所施設の意見	
遊ぶ場所があってもゲームやスマホとなっていること。体を動かし遊ぶ姿をあまり見ない。外に出たがらない	
おとなに相談しても子どもの言うことだからとスルーされたり、そんなじゃ世の中生きて行かれない、世の中厳しいと言ったりして取り合ってもらえていない(真剣に話を聞く余裕も時間もない)	
親の関わりの少なさ	
学校での人間関係や授業だけでは理解できず、学習の遅れにより勉強嫌いになる	
学校へ行きにくい子ども、人との関係性、コミュニケーションの苦手な子、メタ認知の弱さ、先の見通しが持ちにくい	
休日などに子どもが安心して使用できる公園や遊び場の確保	

その他回答	
	子どもが大きな声を出して走り回れるところが少ない
	スマホ、ゲーム機から離れられず、睡眠や学校生活に影響している
	機能不全家族(親、子ども共に障害がある)
	学業不振の子ども
	地域や学校の中で孤立している
	通所受給者証のデイの上限が 23 日であること
	ネグレクト、父親の育児不参加など
	不登校、いじめ、勉強が難しい
	ヤングケアラー
指定障害児相談支援事業所の意見	
	行き渋り、不登校、ゲーム・ネット依存、家庭内の養育環境不良、貧困
	貧困家庭の子どもの生活環境や、その環境の中で育った子どもの将来の子育て環境
	福祉サービス(地域資源)の少なさ
	不登校の子が増えている
	障害のある子どもの通所支援は充実してきたが、地域の中の遊び場や交流は障害のある子どももない子どもも同様。少ない
その他の意見	
	特性に合わせた支援をなかなかできていない状況の中で苦しんでいる子どもたちもいると思う
	児童虐待については目には見えないが明らかに心配な家庭が見られる
	不登校、ひきこもり、ヤングケアラーなどのケースがある
	生活及びライフステージごとの一貫した支援が受けられていない
	人間関係や学習面での課題など
	年齢の近い子どもと遊ぶ機会が少ない(近所に子どもがいるかどうかの情報がない。支援センターに出向いて行かないとわからないなど)
	不登校児童生徒の増加。学校に不適應な子どもたちの存在
	SNS に関わって犯罪被害に出会う子どもの存在
	“子どもたちと話しているとこの曜日とこの曜日しか遊べないという子もいる。お互いに自由な時間が合わなくて遊べないと言う現実もある
	YouTube を見る子が多い。昔は一つの漫画やドラマで共有しておしゃべりできていたが、それぞれの興味が違うので、YouTube では共有できる話題が少ないように思う
	子どもの育ちに必要な、子どもだけで自由に工夫して遊ぶ時間、場所、仲間がない
	学校に行けなくなった時やそういう選択をした時の居場所がない”

問9 (2) 取組(事業)を通じて感じられる保護者が抱える課題(自由記入)

【主な意見の抜粋】

- 子どもが抱える課題と同様であるといった意見がある。
- 子育てや子どもに関する知識・経験不足、それらの相談やコミュニケーションの場がない事などが挙げられている。
- 仕事と子育ての両立が難しい事、地域や他人を頼れないことなどが挙げられている。

【参考】AIを活用したとりまとめ

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • 子どもとの適切な関わり方がわからない • 子どもの教育や育成についての懸念 • 子どもの健康や発達に関する心配 • 子どもの将来に対する不安や期待 • 子どもの特性や発達についての理解不足 • 子どもの発達についての情報過多 • 子どもの発達や行動に対する不安 • 子どもの預け先や保育環境の問題 • 子育てと仕事の両立の難しさ • 子育てにおける孤立感や孤独感 | <ul style="list-style-type: none"> • 子育てに関する不安や悩みが多い • 子育てに関する不安や悩みが多い • 子育てに対する社会的な理解の不足 • 子育ての負担感や疲労感 • 子育て支援の場や相談先の不足 • 子育て支援の情報や機関が不足している • 子育て中の孤独感や孤立感 • 障害を持つ子どもや保護者の支援の必要性 • 保護者の働き方や生活環境の問題 • 保護者間のコミュニケーションや連携の問題 |
|--|---|

その他回答

住民自治協議会の意見

- | |
|--|
| 居場所、交流の場の不足 |
| 今の時代にあったPTAのあり方 |
| 教育費 |
| 経済的な面での負担 |
| 子育て仲間がいない |
| 子育ての悩みを相談できる機関 |
| 子どもを何人でも集めて安心して子育てができる、社会的、経済的環境。欧米並みの改革をしないと異次元の改革とは言えず、百年の計で子育て政策を考えてほしい |
| 十分な時間とお金がない |
| 少子化、核家族化などの進行により子育てでも気軽に相談できる人が身近にいないことにより子育ての孤立化が課題と考えている |
| スマートフォンの普及による経費の増大と利用状況 |
| 成長していく子どもが友だちに感化されやすく、反抗的態度が多発 |
| 相談する人がいない |
| 通学に伴う送迎に苦慮している親がいる |
| ネットによる誹謗中傷 |
| 話したい。アンケートを作成してくれた方々に言いたい |
| 病院が少なく、あっても小児科の専門ではない。中学校ではクラブの選択肢が少な過ぎる |
| 病気の対応 |
| 放課後の子どもの過ごし方 |
| 保護者が共働きの場合には特にお父さんお母さんが仕事から帰宅するまでの時間安心して預けられる体制が確立されているところが多くあることだと思う |
| 保護者間の連携、つながりと地域への参加 |

その他回答	
	私たちの地域に緊急時に行かれる病院がないこと
私立保育所・認定こども園の意見	
	①子育てがわからない、不安がる親 ②子育てに自分の生活が制限されると思う親 ③子育てへのストレス
	気軽に悩みを相談できる場所。すぐ専門機関に相談すると大事になるのではと思っている人も見受けられ、相談はしないと多くの人も多い
	子育てについてのアドバイスをしてくれるところを知らない
	子どもが抱える問題と同様
	子どもが病気の時(感染症など、数日かかる場合)、職場を休みづらい 子どもの発達について不安を感じる(情報が多過ぎる為)
	子どもとの関わり方など核家族が多い中情報が少ない
	子どもの育て方に迷いを感じる
	子どもも保護者も核家族が増えていて、東広島市は通勤族も多いので、地域との関わりが疎遠になりつつある 仕事と子育ての両立で多忙。イラつくこともありキツイ言葉も出ることがある
	発達支援の必要な子が年々増え、通院したくても受け入れる病院が少なく順番待ちの状態の子どもが多い 夫婦だけの子育て世帯が多く、子どもの体調がすぐれない時に仕事を休めない保護者がいる。病児保育を利用している人もいるが、子どものことを考えれば家庭で看られる状況になれば良いと思う
	保護者の子への虐待
	よりどころも少なくなってきたのではないかと
	我が子に障害があると認めたくない
認可外保育施設の意見	
	行きたい保育園やその地域へ通えない
	育児不安。ワークライフバランス形成の難しさ。子どもとどう関わって良いかがわからない。親の育ちの整理ができていない。特にネガティブな部分。心に余裕がない
	急な子どもの体調不良で仕事を休んだりお迎えに来るのがなかなか難しそう
	子育てに関する知識が不足している面がある保護者(特にひとり親家庭)がいる
	子どものイレギュラー時に保護者が対応しやすい環境かどうか 保育園に入れないと職場復帰もできない状況 兄弟姉妹が別の施設になる
	働かずに認可外保育施設に預けたいが、それでは無償化の対象から外れるので仕方なく働いている(働かずに子どもとの時間を大事に過ごしたいのが本音と言われる)
	日々の余裕のなさ(子どもが食事を摂っていなかったり) コロナもあってか情報収集の場がない。ネットで誤った情報が多い
	幼稚園・・・認可外でも私立同様の内容で無償化対象にしてほしい 平日、休日を含め子どもたちの活動できる環境を増やしてほしい(特に室内型)
幼稚園の意見	
	子育ては円満な家庭から 幼児期に善悪のけじめをはっきりと教える
	子育てへの不安、これでいいのかという心配
子育て支援センターの意見	
	(1)に関係。子どもの発達課題に気付かない。または気づいても気にしていないそぶりになってしまう
	親同士イベント、またイベント以外で話をしたり相談したりしているものの、なかなか交流が深まらない。一歩踏み出して本当につながりが持てる親同士にしたい
	核家族の増加により母親への子育て負担が大きくなっており、子育てに楽しさや喜びを感じられにくくなっている(ネット情報過多、周りに助けを求めにくい社会)
	気軽に相談できる(話が出来る)場所

その他回答	
子育て仲間がいらない(情報はほとんど携帯) 近所付き合いもなく孤独になりがち 仕事復帰する人が多いが園、所に入れない 一時保育の受け入れ先が少ない	
地域の子(支援が必要な子)の保護者の把握ができない為支援センターに来ることができる人のみの支援になっている 保護者の知識不足や現状の受け止めに困難があり、支援の限界が生じている(見守るしかできない) 保育園に入れず育休を延長している。入りたい園に入れない	
ネット社会による情報の多さで子育てを振り回されている人もいる	
病気の診察及び発達心配な子どもへの診断について小児科が対応しきれていない。職場復帰ができない。 ワンオペの現状	
保育園入所問題	
子育てサークル・サロンの意見	
学校、地域、職場など社会全体の理解が乏しく、相談してもわかってもらえなかったり、解決せずそのまま放置され、問題解決しない	
子育てで行き詰っても頼る先が少なかったり、母子が孤立したりしている 共働き家庭が増えて時間的にも精神的にも余裕がない	
子どもが生まれてから自分の時間を持つことがずっとできなかった。特に海外の方と交流する機会も持つことが難しい。転勤者も多いけど、周りに頼れる人がいない中孤独な子育てになってしまう	
困った時に協力し合える地域住民とのつながりが作れない	
自信がないのでは。スマホに振り回されじっくり子どもを観察して育ち合う(育児、育自)がしにくくなっているのでは	
社会復帰する為の保育所入所が難しい ワンオペしている気分させられる現状	
助けを求めて行く場がない。ひとりで抱えてしまう。どうせ言っても、というような否定的な考え。おばあちゃんおじいちゃんがいても働いていて甘えられる場がない。子どもを預ける場所がない。働いても給料が安かったりして生活苦。子どもに対する時間が足りない。忙し過ぎる	
ヘルプが気軽にできるか。することにためらいがある	
ママ友(子どもを含めた)で集まれる場所がない(無料または格安のキッズスペース、フリースペースなど)	
ワンオペや悩みを共有する場の少なさ。大変な育児になっている核家族が多い。児童期の親の居場所が不足	
放課後児童健全育成事業(民間)の意見	
インターネットの普及により、自身の子どもたちの特性についてカテゴリ別に検索し、病名を特定しようとする。一方で医療機関にかからず、本来療育的教育が必要な児童に支援が届いていない	
子どもが学校に通えなくなると保護者も働けなくなる	
子どもとの過ごし方、接し方が粗末になっていないか	
子どもに対してやさしく甘すぎる親がいる反面、子どもとのコミュニケーションが十分に取れていないと思われる親もいる。子どもへの適切な関わり方が十分に理解できていない保護者がいる	
第1子が生まれて喜ばしい反面、初めてのことなので不安な母親が多い。第2子出産後、上の子どもの方が大変になりしんどいと言う声を多く聞く。保育園に入所しづらい、小児科が少ないなど	
第2子が小学校に入って、児童クラブ、当施設に入れるか心配。児童クラブで楽しくやっていけるか。 夏休みのお弁当は大変なのかもしれない	
長期休暇中の子どもの預け先がない 臨時休校、学級閉鎖時の預け先がない	
転入者が多く孤立しがちな点 土日でも休まず働かざるを得ない保護者が増えてきている	
地域サロンの意見	
孤独な子育てになりがち。子育て中のリフレッシュする場が少ない	
こども園設置の希望	

その他回答	
	特にひとり親家庭は休みの日に預けるところがなく仕事に支障あり。生活が不安定となる
	ゆっくりおとなと会話をする機会がほしい
	多子世帯(幼児)だと公園に連れて行くのが難しい
	小さな子どもがいると行動範囲が限られる
	ワンオペの母親が多く、心身共に疲れている母親がいる
	検索魔になりやすく、偏った情報をうのみにしやすくなる
児童発達支援の意見	
	(1)と同じ
	保護者自身に特性がある人に対する家族支援(相談、メンターの活用)
	気軽にアクセスできる相談場所
	子どもの将来の生活
	子どもを通じて親育ても必要
	自施設(約 100 人)には 24 時間対応できるようにしているが、身近にいつでも相談できるような取り組みが必要と感じる。障害の分野で地域生活支援拠点事業があるが、アウトリーチなどが無い為全く認知されていない
	しつけの部分と障害の部分の見分けができず子どもがやりたい放題になっていること
	相談できる場が少ない、知らない
	発達外来のある病院が少ないこと
	保護者自信にもニーズがある方も増えており、関係機関との連携の必要性も高くなっている
	療育を必要とする家庭の保護者が子どもの特性を受け入れること
障害児通所施設の意見	
	いきいきの受け入れ不可。児童デイサービス(放課後)の受け入れ不足(定員オーバーなど)
	学校へ行かない子への対応。子どもの特性への対応。子どもの特性に気付くのが遅れた
	子どものことは家庭のせいとされる(何も言えなくなってしまう、親の方が相談できなくなってしまう)子どもに厳しくなってしまう)
	周りに頼れる人や預かってくれる人が少ないので親(片方の親に負担がかかりがち)の余裕もない
	子どもの将来(就職、またはその後)
	放課後等デイサービスは「上限が 23 日」の利用者が多い。保護者にとっては働く日数が限られるので困っている人も多い
	子どもの不登校や行き渋り
	仕事などで子どもを預ける場所が少ない
	周囲の発達障害に対する理解
	学校との連携
	障害を持った子どもの支援
	将来の不安
	高校卒業後の就労や生活
	将来への不安
	食品の安全性を考えた食事の提供、及びスマホ、タブレット(YouTube、ゲーム)の制限をしてほしい
	通所受給者証のデイの上限が 23 日であること
	不登校児童の対応。学校の対応に疑問
	相談できる行政機関が少ない
	保護者間の人間関係があり、友だちと遊ばせない家庭があるように思う。親が親になりきれしていない
	周りの反応が気になり気軽に外出できない
指定障害児相談支援事業所の意見	
	預け先が少ない。障害を持つ子の家での対応の負担が大きい
	働く母親の療育(児童発達)の利用が時間的に厳しい
	保護者の子への適切な関わり方を学ぶ機会が少ない

その他回答	
発達障害など、特性のある保護者の子育ての難しさ	
市外の特別支援学校に通う子どもの卒業後の進路選択における情報の少なさ、連携システム	
福祉サービス(地域資源)の少なさ	
情報の少なさ(子育てに関わる全てにおいて)	
保護者の急病や出産、他児の病気時など、障害のある子どもの預け先が地域にないこと	
その他の意見	
安全に遊べる場所(支援センターなど)が車の運転ができないとすぐには行かれない	
携帯、ゲームに関する約束ごとの設定。管理が適切にできているか	
子どもに負担の大きな家事を分担させざるを得ない状況(ヤングケアラー)	
世帯ごとの支援の受け入れ量が偏っており、一因として障害受容の均一的な啓発が受けられていないことや、家族への支援が受けられていないことなどがあげられる	
不登校、ひきこもり、ヤングケアラーなどのケースがある	
保護者の生活を支える機関が少ない	
ワーキングママはご飯が簡単なものになっている	
ワンオペの人は疲労と孤独を感じている	
お母さんに余力がなくてじっくり子どもに手をかけられなくなっている	
家庭の中で完結しようと必死。周りに迷惑をかけてはいけないと思ってしまう	
積極的に人と関わって助けを求めることのできる人とそうでない人の差が大きい	
子育てでモデルが一つ二つしかないように感じられて、それより少し違っていたら、自分は失格ではないかと悩んだり、苦しんだりする親がいる	
他人の価値観に無理して合わせがちになる	
障害の受容、受診待機など	

問9 (3) 取組(事業)を通じて感じられる家庭を取り巻く課題(自由記入)

【主な意見の抜粋】

- 家庭という枠だけではなく、近くや周りとのコミュニケーション、巻き込む考え方ができないこと、またつながりを作れていない状況・環境が課題とされている。
- 子どもの(安全に、自由に、広々と)あそべる場が少ないことが課題とされている。

【参考】AIを活用したとりまとめ

- | | |
|---------------------|-------------------|
| • 公共スペースの不足 | • 地域の交流やコミュニティの問題 |
| • 子どもの放課後の安全確保問題 | • 地域の高齢化問題 |
| • 子どもの遊び場が不足している | • 地域の子育て環境の整備 |
| • 子育て家庭と地域社会のつながり不足 | • 地域の情報理解力の問題 |
| • 子育て世帯と高齢者世帯の交流希薄 | • 地域の人口や出生率の問題 |
| • 障害児の保育に関する問題 | • 地域の伝統行事の継承困難 |
| • 新住民と地域の情報共有の困難さ | • 地域の福祉サービスの問題 |
| • 地域コミュニティの希薄化 | • 地域内の安全問題 |
| • 地域との連携が難しくなっている | • 保育園の待機問題 |
| • 地域の医療環境の問題 | • 保育園や学校へのアクセス問題 |

その他回答

住民自治協議会の意見

安全に遊べる遊び場・スポーツの場所、広場
一部地域は子どもが歩いて通学するには遠過ぎて保護者が車で送迎必要な地域もある
近所以外の子どもに対する関心の薄さ
近隣の付き合いが希薄となっており、以前あった「子ども会」もなくなっており、親同士、子ども同士の普段からのふれあいが弱まってきている
公園、集まれる場所がない
公共交通がないに等しい
少子高齢化(高齢化率約6割)
子育て世帯と高齢者世帯の交流希薄
子育てに関して家庭と地域の摩擦は少ない
子ども同士の遊ぶ場としては家の近くに田畑が多い為自然とふれあう場所としてはとても良いと思う
子どもの設定、遊び場が少ない。まずは集えて楽しめる場がほしい
子どもの人数の減少
現在の小学校児童は新興住宅がほとんどで地域の昔からの行事などの伝承が難しい
子どもは家庭内で育てるということで、地域が関わり合いを持つことが少なくなっている
自然には恵まれているが、友だちの家も遠く人数も少ない
習い事の種類が限られている
自治協議会を支える諸団体やその他のいわゆるボランティアで活動することに対する「参画意識」の希薄化、諸々の協働意識の希薄化が現在及び今後の課題だと思う
地域コミュニティの弱体化
地域で子どもたちを育てていく為の環境作り
地域の高齢化
地域の中で孤独になっている
地域を取り巻く子育て家庭問題は地域の課題としてできる限り子どもたちを中心とするイベントの開催、高齢化時代にもそれぞれの子どもが貢献できる場を提供してあげられるよう現在考えながら進行中である。それには少しでも保護者の地域に対する理解が必要だと思う
広島県警のオトモポリスより不審者情報が度々届く
老人ばかりの限界集落では若い人(世代)は暮らそうとは思わない
若いおとなが生活できる環境(仕事)

私立保育所・認定こども園の意見

駅が遠い。送迎が大変。少子化によるさまざまな問題
核世帯が増えているので、他家族、地域との交流が必要
子どもも保護者も地域とのつながりが希薄になっている
小児科が少ない、予約が取れない状況
兄弟が別の保育園に通う為、送迎が大変
少しずれているかもしれないが、中央5丁目付近は個人所有の空き地が多く管理されていない為、散歩や登園降園において見通しが悪いところがあり、危険な場面になったことがある。解決してほしい
世代を超えた交流が少ない
地域もだが、人と関われる、人と接することができる場が少ないのかもしれない
人気のある保育園に集中してしまうこと
八本松地域は子どもをととても大切にしている地域だと開園前から感じている
周り・近隣には子育て家庭がほとんどない
三永地域は古くから住んでいる家庭と新しく引っ越して来た団地の家庭が入り乱れている。交流が難しく子育て家庭の親と親、また地域をつなげる課題がある
昔は地域で子どもを見守れる環境、関係性があつたように思うが、今は薄れてきていることも子育ての環境問題の一つになっているのではないかと思う

その他回答	
	療育に入るまでの期間が長い 発達診断までの期間が長い
	障害児を保育するには保育士を一人付けなければいけない。しかし行政の補助がない為現場は大変である
認可外保育施設の意見	
	希望する保育園などに入りにくい
	子どもがのびのびと健やかに育つ土壌の環境資源のゆるやかさや豊かさが感じにくくなって孤立化が進んでいる。コロナの影響か、2ヶ月～の外気浴などあまりされていない印象を受ける
	困った時に頼り合える仲間がない(祖父母も遠くに住んでいる人が多い)
	近くに頼れる人がいないこと(祖父祖母など。いざとなった時に頼れる親族など)
	認可外で感じることは今さまざまなカラーを持った子どもたちが自分に合う場所を見付けることができ、その場所で同じ保育や教育が受けられることの大切さをもう少し市は理解してくれたらと思う。いろいろな思いを持って来ている保護者は自分の子どものカラーを受け入れ子育てをしている。働いている、働いていないではなく年齢に合った平等な補助を希望している
	認可保育園の待機問題
	発達障害のある子どもやグレーゾーンの子どもの訓練施設など
	公園の数
幼稚園の意見	
	さまざまな地域から集まっている為、一緒に遊ぶ場が園以外で少ない
子育て支援センターの意見	
	近所同士での関わりが少ない
	車の運転ができない保護者が親子で気軽に使える公共交通機関の充実
	戸外で自由に遊べる場所の減少(ボールが使えない公園。それで遊ぶと学校に通報される環境)
	雨天時の子どもの遊び場
	地域住民の関わり希薄化
	子どもが遊ぶ場所の確保
	地域環境については支援員自体が把握できていない。また取り組みがなかなかできていないので積極的にこれから実施していかななくてはならない
	地域住民の人数が減っていく中で子どもの出生率が低い為同年齢の子どもたちが少ない
	地域の方々と交流が少ないので、近くの地域センターで教室(琴、オカリナ)を見学できたらと思う
	引っ越し、転勤など、市に新しく住む人も多く、地域の方との連携、情報共有ができない
	学童保育に行かれない子どもの放課後の安全確保や問題を話す場がない。児童館があればいい
	子どもの見守り活動など、皆働いているのでできない
	保育所、小児病院の少なさ。産院の減少
	歩道が少なく、小学校などの登下校に危ないと思う
子育てサークル・サロンの意見	
	3年間のコロナ期間を経て地域での活動が減少した為、地域コミュニティの希薄化
	家と家の間に小さな公園(ただの広場)はあるが、子どもたちが集うような公園ではない。工夫してほしい
	家庭の中が見えにくくなり、お互いに声を掛け合ったり助け合ったりすることが難しくなっている
	子どもがボール遊びなど自由に遊べる場所が少ない。児童館のような、放課後に安心して遊べる場がない。いきいきなどに行っていない子どもが親が帰るまでの間どのように過ごしているのか把握されていない。どこにどのような年齢の子がいるのか地域の方が知らない
	自然が圧倒的になくなってきた。道草を食う場、空地、子どもだけで入れる山が残っていないのではないかと。自然体験ができにくい。危なくない遊び場として整備し過ぎて野生のヒトの力が引き出せなくなっている
	せっかく海外の方もたくさん住んでいる地域なのに、すれ違うだけで交流する機会が持てず残念
	他市、他県から転居してきた人が多い。子育てをするにあたり孤立しない社会に
	転勤族が多く、近くに頼れる人がいない。30分程ちょっと子どもをみてほしいなどという時に困る。ファミサポを利用とはいえ、短時間過ぎると利用をためらう

その他回答	
	隣人との関係は浅く
放課後児童健全育成事業（民間）の意見	
	家庭だけでなく地域で子育てをしていける環境を整えたいと思う
	急激な都市化で人口も増え地域の連携が難しくなっている
	下校時間に合わせて学校に迎えに行くが、帰る時の他の児童の交通安全が守られていない。県道に出たり、押し合いっこをして危ない場面があり、地域の人との離合など、地域の人でも大変ではないかと思う場面がある
	子育て家庭と地域、行政とのしっかりしたパイプづくりを進めていかなければならない
	この地域で育って良かった、この地域で結婚して子育てをし、暮らしたいと思える地域にしたい。もっと子育てに必要で楽しい施設を増やす
	コロナが収束し一見日常に戻ったように見えるが、反面不登校、ネグレクト、ヤングケアラーなど、新たな課題が浮彫となった。そういった児童の受け入れ先や将来ビジョンを共に考える機関が不十分である
	待機児童を解消する為に公募があれば民設民営として関わってきたい
	地縁、血縁のない転入者が多いこの地域で家族だけで解決しなければならない状況（仕事を急に休むことができない。預け先がないなど）
	母親は子どもと少し離れて自分の時間を持ちたいが、いざ仕事、パートを探してもすぐに保育園に入れない状態がさらに母親の不安やイライラを加速させるのではないかと感じる
地域サロンの意見	
	核家族が多かったり、親世代の子育ての違いに悩んだりしている。近所の人との付き合いもしない（できない）人も多く、他世代との交流が難しい。フットワークが軽くない人は外で他者と交流するのもおっくうな場合が多い
	過疎地の為子どもが少ない
	子育て家庭同士のコミュニティの場が増えることでゆとりのある豊かな地域になる
	子育て家庭と地域社会とのつながり、交流が少ない
	子ども中心の為、地域の中の子どもを忘れている
	地域との関わりが少なくなっている
	黒瀬など地域により、子どもが非常に少ないところも多くなっている
	東広島市内でも人口の地域格差があり、特に豊栄は出生率も低く過疎化が止まらない。同級生がほとんどいないという現実がすぐ目前にきている。市全体のバランスを考えた政策で特色を生かした地域づくりを考えていただきたい
	ほとんどが核家族なので独立化しやすい。地域の人たちとの交流経験が少ない。どちらかと言うと母親中心の子育て
児童発達支援の意見	
	核家族世帯がわりと多く、頼れる人がいない家庭も多いように感じる
	行政各課、教育機関の連携が取りづらい
	小中学校、保育所との連携
	働いている保護者の子どもも十分な療育が受けられるような仕組みづくり
	保護者が子育ての悩みなどを相談できる場が少ないように感じる。東広島市でもメンター活動は実際に行っていると思うが、全体的に周知があまりできていない（知らない保護者が多い）
	幼保（保育課）、子育て（こども家庭課）、障害（障害福祉課）、小学校（指導課）、学童（青少年育成課）、地域のプール（スポーツ振興課）など、子どもを取り巻く課の共有がされていない。どこがインチャシブを取って子どものことを考えていくのか検討していただきたい。また基幹型子育て支援センターの機能強化や見直しをしていただきたい
	療育を含む支援、相談機関の拡充
	障害のある人が地域で自分らしく生活する為に配慮や支援が必要となる。その為に関わる人や機関が互いに理解し合う環境づくりが必要と思われる
障害児通所施設の意見	
	壁がありなかなか交流が難しい
	ご近所トラブル

その他回答	
子育てを母一人で行っている。夫や家族の理解が得られない。近所付き合いが少なくなっている	
子どもたちのいじめ、不登校、貧困(お金の管理ができない) 虐待が見受けられる	
子どものこと、子育てのことの相談できる場所の資源マップ(医師会のマップのような)があるのだろうか、周知されているのだろうか	
サポート体制の不足	
自由にのびのび過ごせる遊び場が少ない。理解のない人や子どもの声にクレームを出す人が近くに住んでいたらびくびくしながら過ごすようになる。これは教師にも多い	
相談できる場がわかりにくい	
団地に住む家庭を近所の人たちが把握していない。良くも悪くも希薄。「このお宅をご存じですか」と聞いても誰もわからない。知らないと返ってくる	
地域社会の理解	
地域との交流	
通所受給者証のデイの上限が23日であること	
当法人が支援する重症心身障害児・者に関しては根本的に東広島市内で利用できるサービスが少ない問題がある。またサービスと利用児・者、保護者を結びつける助言を行うようなところが弱いと感じる	
本当の情報を正しく理解する力をつける教育、またはセミナーの開催	
指定障害児相談支援事業所の意見	
公園なども制限があり思いっきり遊ぶ場所がない	
地域的にさまざまな機会において市内とは切り離されていると隔たりを感じている人が多いように思う	
地域の顔の見える関係づくりと、インフォーマルな関係者に支援者となってもらう場合の個人情報やプライバシー保護とのバランスの難しさ	
福祉、教育、医療が連携できるシステムの構築(個別支援レベルでは行っている)がされていない	
北部地域の福祉サービスの利用が難しい、事業所がない(送迎サービスの範囲外)	
市内中心部の住民は通勤族や県外出身者が多く地域のつながりが薄い	
その他の意見	
気軽に集まれる場がない	
歩いていけるところに遊びがない	
子どもが安心して遊べる場所がない	
子どもの育ちに必要な、子どもだけで自由に工夫して遊ぶ時間・場所・仲間がない	
車がないと出かけられない地域が多いこと	
県内におけるかつての暴走族のような不良青少年グループの結成の動きがあり、本市への波及が懸念されること	
地域としての障がい受容の低さ、支援機関ごとの偏り、連携の程度の差が顕著	
保護者の都合に合わせる動きになると労働時間が過酷になる為、その調整がとても難しい状況	
療育センターが少ない為、なかなか療育が受けられない	

問10 「家庭が抱える課題」を解決するために取り組みたいこと（自由記入）

【主な意見の抜粋】

- 子どもを預けられる場、遊べる場、親子で過ごせる場、親同士・地域の方と交流できる場、など様々な場づくりに関する意見が挙げられている。
- 悩み等の相談支援や気軽に話ができる環境が必要であるとされている。

【参考】AIを活用したとりまとめ

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • 安全な環境と場所の提供 • 子どもと保護者への個別サポート • 子どもの安全と健康を守る活動 • 子どもの自然体験の提供 • 子どもの発達支援活動 • 子育て環境の改善提案 • 子育て支援センターの利用促進 • 子育て支援とコミュニケーションの強化 • 食育と自然体験活動の推進 • 親子の絆を深める活動 | <ul style="list-style-type: none"> • 地域との連携と情報共有 • 地域活動やイベントの開催 • 地域交流の場の提供 • 地域施設との連携強化 • 地域全体での子育て支援 • 適切な情報提供と相談対応 • 不登校児童への対策と支援 • 保護者との信頼関係の構築 • 保護者の孤立防止策 • 保護者同士の交流の促進 |
|---|---|

その他回答

住民自治協議会の意見

- 朝の通学時の声掛け運動などを通じて子どもとの交流機会を設けるとともに子どもの笑顔や歓声が生まれる事業に積極的に取り組む
- 移住者を募集
- 一番大切なことは子どもからお年寄りまで、私たちの地域で暮らしていただける人は地域の財産である。だから「一人の人を大切に」をモットーに「地域総ぐるみ活動」と銘打ってあいさつ運動を中心にこれからも仲の良い地域を構築していきたいと思う(会長自ら新しいアイデアをと考えている)
- 今やっている取り組み(事業)を継承していく、また拡充していくこと
- 打つ手がない
- おとなが子どもを見守って地域で行う
一例:夏のプール運営はできるだけ続けたい
- 高齢者がいつまでも元気に長生きし、子どもたちの見守り活動ができ、安全・安心に過ごせる地域づくりを進めていきたい
- 子どもが参加できる、しやすい行事の計画実施
- 子どもの居場所づくり
多様性を受け入れられる環境づくり
子どもが参加しやすい事業を行う
- 子どもを対象にした活動をしていないのでよくわからない
- 自治協が中心になり、各自治会へ働きかけ誰もが参加しやすい行事を実施する
- 自治協議会に属している、今ある諸団体の活動を地道に着々と実施していくことが大切だと思う
- 住民自治では解決不能
- 諸行事を地域センターで実施する
- 世代間交流
- 地域全体で年齢関係なくコミュニケーション取りながら取り組みたい
- 地域の方が必要と思われる講座などを企画する

その他回答	
問3に掲げた行事以外に子どもたちが気軽に参加できる行事を準備しており、自治協、PTA など力を合わせて取り組みたい(竹とんぼづくりや飛ばす体験を中心としたイベント実施)	
登下校の見守りや学校行事への参加を促す	
当団体としては家庭問題に対して直接的には解決策を示すことは難しいと思う	
場所の確保	
子どもたちの遊びをおとなが知ること、体験すること	
町中の方々はどんな悩みがあるのか。貴団体とあるが東広島の酒祭りと同様な祭りがでたら良い。お金があればだが	
見回りや下校時刻に合わせて散歩、買い物をする	
龍王地区は平均年齢も37歳台と若く子育て世代の町になっている。その世代(親と子)に向けての事業展開の強化	
私立保育所・認定こども園の意見	
アドバイスができる学びの場に自分自身が参加してみたい	
いつでも子育てについて話ができる園の雰囲気作り	
日常の保育を発信する(子どもたちの育ち、園でのようす)	
園庭開放を周知してもらい、利用してもらいたい	
交流の場を設けることはできるかもしれない	
子育て支援センターを利用してもらって、利用者同士が職員との交流を通してそれぞれの不安や悩みを解消できるようにしていきたい	
今後も地域と連携を取りながら教育、保育を行っていく	
さまざまな地域の関連施設との連携を図る	
市との連携の強化	
他機関との連携	
職員体制の充実(加配の配置)	
地域ぐるみで子どもたちの安全を守るお手伝い如果能したらとは思っている	
地域センターでの交流会、みそのトライアングル活動計画の実施(積極的な参加)	
保育内容のさらなる充実	
実際園内で行っている地域サロンの交流を活発化させる	
地域の子育て家庭の人にとにかく保育園や支援センターに来てほしいと思っている。保育園には保育士、看護師、栄養士がいる。しっかり利用してほしいと思っている	
保育所職員が地域に出向いていくことをしたいが、現状では人員配置などに無理がある	
普段のコミュニケーションを密にする。定期的な個人相談(年2回)。子育て支援	
保護者と話し合い子どもに障害がある場合、早期に検査してもらうように取り組みたい	
保護者の大変さ・困り感に共感し、温かい言葉かけをしていくよう努力する	
認可外保育施設の意見	
一時保育を積極的に受け入れる。また園庭開放を通して子どもの姿への理解、相談支援を行っている	
国際社会で生き抜く為に英語を怖がらず自由自在に使える環境を作る(認可保育施設にしていただければ助かる)	
子どもたち、保護者と一人ひとり向き合いサポートできる環境を作り、その為にも、幼稚園とも密な関係が取れるよう行動していきたい(民間さんは・という表現をよくされるが、子どもの命を預かっているのは同じである)	
自然体験活動や食育の充実	
幼児教育無償化の対象拡充への働きかけ(全ての子どもが平等に無償となるように)	
困った時に頼れる仲間づくり。保護者同士の関係性を深めること	
市などが動いてもらえれば有難い	
地域枠での受け入れ(現在も行っている)	
特に問題はない	

その他回答	
母親や父親の仕事がお休みの時など保育園に預けてリフレッシュをしているが、子どもたちはできていないと思う	
保護者とは日々の保育を通して情報提供を行い、情報の共有を行う。病児・病後児保育を充実させ受け入れる	
幼稚園の意見	
園庭開放など、保育時間外の施設(園庭)利用	
社会福祉協議会へ相談する。	
福祉とは読んで字のごとく普段の暮らしの幸せ。社会福祉協議会は人々の幸せを願う団体だと思う	
子育て支援センターの意見	
(1)(2)に対してはファミリーサポートや市の子育て支援事業を紹介し、少しでも保護者の不安や負担が軽減するように努めている	
(3)に対しては徒歩圏内で利用できる子育て支援施設を紹介する	
現状維持をしつつ、できることを考え増やしていけるようにはしたい	
子育て支援センターなど、予約制をなくしたら利用しやすくなると思う	
子育て支援センターの周知。すくすくサポートの機能の周知。気軽に来てもらえる環境、雰囲気作り	
駐車場のある公園やさまざまな場所で行っている行事の開催、情報提供	
地域共生の取り組み	
イベントなどで地域のサポーターとボランティアにお手伝いをしてもらい地域の人と子育て世帯をつなぐ	
BP やグループマザーグースの実施で母同士がつながれる場を作る	
地域の子ども、子育て家庭が抱える問題についてもっと地域の人、社会全体が関心を持ち、つなぎあえる場の提供がほしい	
妊娠中から産後、子ども連れで出かけられる場所、子育てについて相談できる場所の周知。パパの子育てへの協力姿勢強化の為のイベントの開催など	
保護者、子どもとの信頼関係を作り、保護者の悩みごとなど安心して話してもらえるよう傾聴、声掛けなどをしていきたい	
まだ子育て支援センターを利用したことがない人も多いので自治協、民生児童委員、市役所などとの連携を密にし、子どもの所在の把握に努めできるだけ多くの方にセンターを知り利用してもらえるように心がける	
見守り隊の方と交通ルールを一緒に伝えていく	
利用者が安心して来れる安全でほっとできる場を作りたいと思う	
子育てサークル・サロンの意見	
親子共に成長できている実感が得られるような体験ができるイベントの実施	
地域性を活かした仲間づくり	
気軽にバナナに参加してもらい、保護者同士の顔見知りを増やしてもらう	
決してひとりではなく仲間がいて、同じような悩みをそれぞれ解決しようと前向きに子育てしているんだよと力を与え合えるよう、茶話会などで話す環境をこれからも増やしていきたい	
子育て中の母親が FunFun に参加することで、少しでも息抜きできる場所、孤立しない仲間がいる場所、子育てなど相談できる場所でありたい	
子どもも安心して過ごせる場所で、親も自分の時間を楽しみながら、地域での人と人とのつながりが作れるイベントや場所を作ること。日本人も外国人も定期的に顔を合わせて仲良くなり関係を作っていけるような場所を作ること	
子どもも親(保護者)もエンパワメントされるような学びの場を仕組みたい(CAP やアサーショントレーニング)	
自然体験できること	
調理実習(糶を使った調味料作り、土鍋でご飯、出汁からみそ汁、おむすび作りなど)	
コロナ禍でマスクをしていて、おとなの表情が見えにくい日々が続いていたが、これからはしっかりと歌を親子で歌ってもらって、親子の愛情を育める一つになれるよう活動を続けて行きたい	
里親制度を広めることで、家族や血のつながりに関係なく子どもを皆で育てていくという社会的風土を広げたい。また里親ショートステイの推進を通して母子を支援し、虐待を生み出さないようにしていきたい	
定期的な外遊びの機会を作る。地域センターの取り組みへ声をかけたり散歩を通して地域を探索したりする	

その他回答	
	東広島の企業や地域の方と連携を図るイベントをしていく
	引き続きご縁のあったお母さんの心のサポートやアドバイスなどをしていく
放課後児童健全育成事業（民間）の意見	
	「みんなのいえ三永」に通う子どもの中には「大きくなったらみんなのいえで働きたい」「大学生になったらアルバイトしたい」「結婚して子どもができれば来たい」と言ってくれる子どももいる。子どもたちが生まれ育った街で自分も住みたい、暮らしたい、家庭を持ち子育てをしたいと思えるように考えている
	核家族化と都市化で他者との交流を望まない家庭が多くなっている。さくらんぼではお迎えの時必ず頑張ったこと、良くなったことを口頭で伝えるようにしている
	学童は市の要件に合わない子を数人でも受け入れる 一時利用の受け入れをする 塾や習いごとなどの送迎
	待機児童の解消
	転入者向けのイベント開催時に、地域の資源の紹介や転入者同士の交流など
	当施設が昼から児童クラブということを発信する。保護者と話ができる時はしっかり傾聴する。児童が楽しんだり学んだりできるよう努力する
	当施設に来館した母親の話をしっかり傾聴する。当施設、他支援センターがあることを発信し、家に子どもと母親だけにならないよう促す。母親が興味のあるイベントや催しを開催し、楽しんだり学んだりしてもらおう。親同士の交流が図れるよう促していく
	放課後児童クラブの利用者に、完全不登校2名が在籍している。4月から開校できるようにフリースクールの準備を進めている。対象の小学校からも出席扱いとすると回答をいただいているが、人員の確保、予算、備品の拡充など、問題は山積みである
	放課後の子どもたちの遊びや生活を充実したものにする
	友人と協力、協働しながら物ごとを辛抱強くやり遂げさせ、達成感、成就感を与える 子どもを通して保護者としてしっかり意志疎通をする
地域サロンの意見	
	いろいろな年齢の人との交流ができるようにしていきたい
	親同士でつながりを作り、気軽に相談できる場を作る 子どもが安全に遊べて楽しめる場を作る
	来ていただいた母親たちにとって心休まる場であること 正しい情報を提供すること 必要があれば民生委員や社協につなぐこと
	子育てサロンの充実 交流の場の充実
	放課後、長期の休みにボランティア、学生などでゆとりをもって学習、運動ができ安心して過ごせる場にしたい。 現在安全性に不安があり、受け入れに制限がある
	保護者同士の交流ができる機会の提供 地域の他の団体との交流 屋外での活動(イベント)を増やす
児童発達支援の意見	
	親とのコミュニケーションを十分とり、ニーズの把握を十分に行っていくこと
	子育て支援ひろばの充実、発達相談会(茶話会、検診車後教室の実施検討中)
	子どもに関わる各機関への情報提供
	市や他機関と情報共有を行いつつ保護者が必要とする(活用できる)サービスや活動などの周知、提案ができればと思う
	専門性のある人材の育成、療育の場の提供
	どんなことに困っているかを改善できるよう、各関係機関共に連携を取りながら子どもたちの発達支援をしていきたいと思っている
	引き続き共通の理解を深める為連携を行っていく

その他回答	
	不登校の子どもに小学校との連携が必要。学校に出向き話す必要あり
	利用者とのヒヤリングを丁寧に行い、将来の進路選択や育児の支えになるよう努める
	利用者や家族への障害特性の理解、関係機関との連携
障害児通所施設の意見	
	安全、安心して使用できる場所の確保
	今ある当法人のサービスの維持、向上により問6を入れていく
	入れ替わりも激しい寺家エリアで把握するのはそもそも難しいと思う
	学校・保護者との連携
	学校へ行きにくい子どもたちや保護者の相談、子どもの学校以外へ行くことのできる居場所作り。発達に課題のある子へのサポート、学習支援、ソーシャルスキルトレーニングなど
	現在多機関と連携しながら困難ケースの対応を行っている。できる限り続けていきたい
	さまざまな機関と連携し、情報共有を行う
	市に23日から27日を上限にさせていただきたい
	食育も含めた安全な農産物の提供及び就労支援体系の確立
	相談支援事業所などへの働きかけ
	ソーシャルスキルトレーニングの強化により、少しでも学校などでのトラブルを減らし、また学習支援を個別に行い理解できるよう支援したい。保護者が孤立しないようサポートを行っていきたい
	悩みや不安など、まずしっかり傾聴し、共に考えたい
	不登校児童の相談。不登校時にも当事業所を積極的に利用してもらうようにして、孤立しないようにしている
	昔の駄菓子屋さんのようにふらっと子どもたちが寄れる場所を作れたらいいなと思っている
指定障害児相談支援事業所の意見	
	個別支援においては同法人内の他事業(生活支援センター、かけはし、CSW など)と保護者同意のもと密に連絡調整を行い、同じ方向性の支援を継続する
	担当行政機関(障害福祉課、はあとふる)を介して教育、医療、保育、子育て機関などへの連携につなげる
	自立支援協議会などへの積極的な参加により、地域の抱える課題について伝える機会を増やす
	制度外のことが充実するとい
	支援時間外(預け先、ボランティア、相談相手がいること)
	障害があっても環境調整や適切な関わり方をすることで生活のしづらさが解消されることを伝えていく
その他の意見	
	折に触れ子どもと育つことの喜び・楽しみ・迷いや不安を話したり、聞いたりできる場を作りたい
	いろいろな人が集まって信頼関係と安心感を作っていききたい
	多様な方とのふれあいの場が必要
	学校以外で他学年や他校の友だちと関わり合い、遊ぶ場が必要
	お母さんたちがおしゃべりして、笑い合える場が必要
	お母さんたちが時にはほっとできる場所と時間は必要
	いろいろな人が安心して参加できる居場所を提供できたらいいなと思っている
	迷惑かけていいんだよ、いい子にしようとしなくていいんだよ、と言ってくれるところを作りたい
	全ての人自身が自身を持って生きられる地域を作りたい。その為に居場所作りをやりたい。でも助けての声をあげられない人や閉じこもって出たくても出られない人もいる。「自己責任ということはない」「あなたが生きているそのことが素敵なんだ」「お互いをそのまま認めよう」「あなたには力がある」ということをまとめると人権ということと表されると思う。人権について啓蒙していけたらと思っている
	啓発活動のさらなる工夫と展開
	定期的な地域巡回による青少年への声掛けと実態把握の継続
	託児のある講座などは東広島市中心、西条町ばかりではなく、東広島市どこへでも託児に行きたいと思っており、できるだけ依頼を引き受けるように努めている
	登下校時出会った時の子どもたちへの見守り、声掛けの強化
	市保育園、幼稚園、学校、行政、事業所などとの連携強化

その他回答	
	母親、父親が子育ての悩みをしっかりと話せる場があったらいいかなと思う
	引き続きさまざまな角度から子育て家庭や障害のある子どもを応援する

問 11 市と協働で取り組みたい子育て支援（自由記入）

【主な意見の抜粋】

- イベントや行事の実施及び市（職員等）の積極的な参加促進が挙げられている。
- 子どもたちの居場所づくり、保護者への支援機会の創出などが挙げられている。

【参考】AI を活用したとりまとめ

- | | |
|--------------------|-------------------|
| • 子どもの居場所と安全な環境の提供 | • 親子の安全な集いの場所の確保 |
| • 子どもの健康と発達に関する支援 | • 多世代交流と地域社会の結びつき |
| • 子ども向けのイベントと活動の開催 | • 地域との連携と交流の強化 |
| • 子育て支援と教育の提供 | • 保育士の確保と待遇改善 |
| • 市との協働と情報共有 | • 保護者向けの講演会と教育 |

その他回答	
住民自治協議会の意見	
	あと5年も経てば地域に小学生はいなくなる
	協働とは名ばかり。市職員の積極的な行事参加を望む
	現時点ではあまり答えることはないのので後日のヒアリングはなしでお願いしたい
	子育ての為に「子育てママの会」への支援を別口で考えてほしい
	子どもフェアを計画した場合の支援制度の確立
	子どもフェスタの開催
	小松原にはハートがある。少数であり、団結力があり、西条の人々が参加できて潮の香りがありながら海の行事の意味も感じてみてほしい。もっと 20km 先の方々に伝えてもらえたら幸いである
	今後子ども園創設の増加と充実（この地に住んでいても隣の自治協力や町へ子どもを送り迎えしなくてはならない、現実の事情をできるだけ少なくしたい取り組み）
	市が持っている情報の共有
	人口が減少傾向にあるので質の高い学びの機会を提供してほしい。市内にある大学や企業と連携し、子どもたちに興味・関心及び創造性を伸ばす教育の場を増やしてほしい
	多様性の理解、受け入れ、相談、支援は全市的に取り組むべきではないだろうか
	当団体としては団体の性質上、子どもを対象にした支援策を考えることは今後の課題である
	まずは人口を増やす
私立保育所・認定こども園の意見	
	1歳半～3歳検診、入園後の園でのようすが連携できれば良いと思う
	その他、3歳検診で「きつい口調で言われ気持ちが減った」と園に相談がくることも数件ある
	今まで職員の確保に協力してもらって感謝している。引き続きお願いしたい
	園、保護者、市との話し合いの場を増やすこと
	園での子育て支援のイベントを増やし、地域とより密着していきたい
	子育て支援にはさまざまな内容がある。支援の内容や種別によって相談の担当課がわかる一覧がほしい。現在は担当課である保育課、またはこども家庭課を頼っている

その他回答	
	自園ではBPプログラムで初めて母親になる方を対象とした支援をしている。また機会があればそのような方を対象とした支援で役に立てることをさせてもらえればと思っている
	誰でも頼れる(入所できる)保育園に
	定期的に御園宇住民自治協議会との取り組みを行い、継続させていきたい
	配慮が必要な子どもに対して、その保護者に対しての子育て支援
	保育環境整備
	保育士の処遇改善
	保育士確保の取り組み
	未就園の子育てイベント
	養成校訪問
認可外保育施設の意見	
	現状が手一杯の為考えていない
	子育て支援活動の場の提供
	自然体験活動や食育活動
	市と協働できること(今は特にないが)があればぜひ取り組んでいきたい
	職員確保、助成金などは公立及び認可主体となっている現状。その為企業主導型施設への希望職員は今後見込めなくなってくる。故に市の方針を是正してもらわないと今のままでは協働は難しいだろうかと
	多世代交流のすばらしさ
	てらにしふれあい食堂の実施(R4年度より月1回実施)
	親教育のプログラムとして親業訓練一般講座の提供
	幼児、乳児、保育、教育
	横のつながりが広がり、子育てをする人々の力になる支援をしていきたい
幼稚園の意見	
	子育て支援に関する講演活動
	当幼稚園は令和6年3月末で閉園する。閉園後も子どもや保護者の皆の力になれるよう努めたい
	未就園児対象で園庭開放、親子サロンなどできるといいなと思っている
子育て支援センターの意見	
	イベントありきではなく、利用者さんにとって大切なことであれば連携を取っていききたいと思う
	親同士がつながり合える事業(地域ごと)、気軽に参加できる事業を実施してほしい
	子育て世帯向けの講演会
	支援センターだけではなく年に何回かは地域支援センターなどで場所を変えて行う。待つ側から出向く側での子育て支援ができたと思う
	世代を超えた行事の企画、開催(地域を巻き込んだ交流)
	ファミリーサポートの周知、子育て支援ボランティアの充実
子育てサークル・サロンの意見	
	CAP やアサーショントレーニングには金銭的なバックアップがなければ困難。学習会や上映会を仕組むにも保育係(有償ボランティア)の確保が欠かせない
	今は活動できておらず、何もできないかと思う
	公園の環境整備やデザインを考えること。リニューアルの際に意見できたらうれしい
	子どもが過ごしやすく親子で安心して集える場所が少ないので、市の施設を貸してもらえると活動の幅が広がりがたい
	子どもの第3の居場所作り
	里親ショートステイの実施、啓発、体制整備
	市役所、教育関係、はあとふるなどと連携し、問題解決につながる動きを今後させてもらえるとありがたいと考えている
	多世代交流の復活
放課後児童健全育成事業(民間)の意見	

その他回答	
出前講座をよく利用させてもらっているが、小学生向けの口座もたくさん企画してほしい	
年に一度総会の場で教育委員会と意見交流をしているが、今後は生徒指導担当の先生と交流できればと考えている	
畑で野菜を育てたりする体験ができればいいと思う	
保育園、放課後児童クラブ、放課後子ども教室など、三永、東広島市の子どもたちが自らの足(気持ち)で通いたいと思う施設を任せてもらいたい	
放課後の児童の受け入れ	
保護者向けの講演会、勉強会、チャイルドカウンセリング、子ども向けワークショップ、フリースクールなど	
地域サロンの意見	
"いきいき"の対象外だが利用したいとの希望などがある。しかし人員・安全面などで制限がある。子どもは国の宝、光である。日々楽しく活動している	
地域社会とつながれるイベント	
始めたばかりで利用者もまだ多くないが、要望があれば講座などもできたらと思っている	
ふるさとを愛する子どもの育成	
地域の役割、見守り体制	
保健師さんの協力があれば良い	
保護者向けのイベント(普段は子ども向けに考えたイベントのみの為)・・・保護者が気分転換できるような機会を作れると良いのではと考えている	
まだまだ地道に一步ずつ地域に根差して活動をしていきたいので特別にはない	
児童発達支援の意見	
1歳半、3歳検診での相談ブース対応	
いろいろな支援がスムーズに受けられるよう協働で取り組めたらと思う	
親に対する子育て教育など	
協力できるところは積極的に行っていく	
現状はなし。まずは弊所の人員不足を解消する為に本部と連携を取る	
今後も健診事後教室など、必要な場面で協力させていただければと思う	
困難事例や地域課題と考えられるケースについて	
土日や緊急時などに日中一時やショートステイを考えている保護者(主に放課後デイ)が増えているが、実際に利用できるところがなく提案できるサービスが限られていたり、保護者ニーズに添わなかったりしている。今後この課題解決に向けて共有、検討できればと思う	
発達などに不安を感じている保護者の相談窓口	
障害児通所施設の意見	
いろいろな家庭があるので将来家を出て過ごせる家事スキルや生活力をつける練習ができる場所があったらいいな、作れたらいいなと思っている。親と子どもが離れて過ごすのも目的であり、低価格で実現させたい。健全に育つように社会全体で子どもたちを育てることができたらいいと思う	
家族支援	
子どもたちが楽しめるイベントの開催への協力	
今後考えていきたいと思う	
寺家や八本松飯田のエリアばかり発展し、田舎は閉校となる学校もある。育休中も保育園に通所できたり、田舎に住んでいても福祉施設とつながれたりすることが取り組みとして必要だと思う	
市の取り組みに協力したい	
塾のような学習支援、市が広報と財政を提供し、あいびいが広大生の配置を行う	
上限が23日から27日に増えれば月～土毎日デイを利用できるので利用していただきたい	
特に考えていないが、協力できることがあれば可能な限り参加したいと思っているので今後共お願いしたい	
不登校など学校へ行きにくい子への居場所づくりなどができたらいいと思う	
指定障害児相談支援事業所の意見	
一つのケースに対していろいろな機関が関われるネットワークづくり	

その他回答
福祉、教育、医療が連携できるシステムの構築
その他の意見
現在実施しているブックデビュー事業など、継続していきたい
子育て支援として託児を続けていきたいと思っている
子どもや地域の方たちと食事をしたり、おしゃべりをしたりしている。そこに来る人たちの交流・活動・遊びをできる範囲で取り組んでいる 虐待環境にある方やすごく悩んで苦しんでいる方には手が差し伸べられていない。厳しい環境にいる方は専門機関にお願いするしかないので、黄色信号ぎみの方は私たちでも支えられるかもしれないので、お互いに役割のすみわけをしながら、必要な場合にお互いに連携したいと思う
青少年ボランティアグループの育成と活動強化(ゆーすふるチャレンジャー)
はあとふるは市の直営機関なので市の方針に従う